



婦人と子ども

第三卷第十號

# 謹告

本誌は、婦人教育及家庭教育、其他緊要なる各種の問題に關して、讀者相互の質疑應答を掲載す、但讀者の應答なき時は、記者之に應ずるものとす。

本誌は一般讀者の寄稿を歓迎す。殊に家庭の日誌、各地に於ける婦人教育幼兒保育の狀態、婦人問題、婦人兒童の遊戲、手毬歌、子守歌等に付きては、詳細なる報告を望む。但質疑投稿は、凡べて左の規則によることとす。

- 一、用紙は、白紙二つ折、字詰は、半枚十行廿二字詰、體は楷書。
- 一、一事項毎に別紙を用ひ、別口に住所氏名を記入せらるべきこと。
- 一、原稿は、一切返附せざることを。
- 一、封書の表には、凡て婦人と子ども投稿と明記せらるべし。
- 一、投稿にして、有益と認めたる時は相當の謝意を表することあるべし。
- 一、照回は往復はがき又は返信用切手封入のこと。

# 會告

本會に御入會なされんとする方は、會則にある通り會費は一ヶ月金拾錢ですから、其割合で女子高等師範學校附屬幼稚園内フレーベル會へ向け何ヶ月分加纏めてお納めの上、申込まれると、雜誌は當會から無代價で御送附します。會員にならないで、たい雜誌だけ買つて御讀みになりたい方は、日本橋區本石町三ノ廿三金昌堂へ御注文下さい、一冊拾錢六冊前金五拾七錢十二冊前金一圓拾錢他に郵税が一冊一錢づゝの割合です。

明治三十六年十月二日印刷  
同 年十月五日發行

不許複製

發行所 東京市本郷區元町二丁目六十六番地  
編輯者 東京市神田區錦町一丁目十九番地  
印刷者 東京市神田區錦町三丁目二十五番地  
印刷所 女子高等師範學校附屬幼稚園内  
發行所 東京市日本橋區本石町三丁目三十三番地  
發賣所 金 昌 堂

大賣捌所 東京 東京堂 同東海信文會社 同北陸館

## 謹告

拜啓來十二月十二日第二土曜日午後一時三十分より麴町區永田町華族女學校附屬幼稚園に於て本會第三十一回常會に兼ね忘年會相催し候間萬障御差繰り御出席下さり度此段御通知申上候

追而當日の會費は拾錢に御座候

明治三十六年十二月五日

フ  
レ  
ー  
ベ  
ル  
會

會  
員  
御  
中

婦人と子ども 第參卷第拾號目次

子ども

- 風の神.....
- プロツスムの話.....
- いそつぶ物語.....
- 考へ物二題.....
- 前號なぞぐの解.....

家庭

- 訓練の統一..... 撃水
- 復讐心の煽動..... 美波ゆや
- 家庭閑話..... その子
- トマトー羊羹の拵へ方.....
- 牛乳の與へ方.....

學術

- 幼兒の想像作用..... 松本孝次郎
- 奇妙な動植物..... 田寺寛二

史傳

サーモビレーの戰..... 米 溪

文苑

- 人の世..... 佐々木信綱
- 煙..... 松寺久雄
- 旅の空..... つねを
- 和歌二題..... 東くめ子
- 我伯母上..... しのぶぐさ

説林

遊戲の方針..... 町田則文

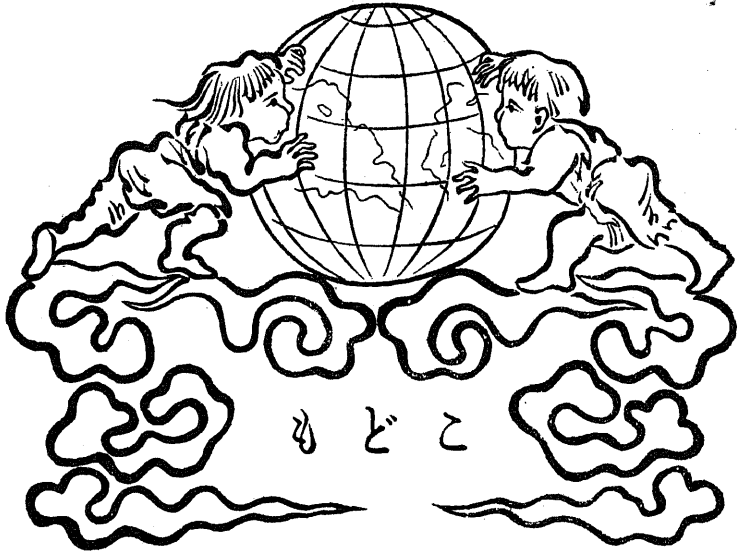
雜錄

- 幼稚園案内..... 東基吉
- 鹽津みやげ(その一)..... 和歌子

叢報

女子高等師範學校▲文部省檢定試験問題▲女子商業學校▲音樂遊  
 戯協會講習會▲大日本女子教育會▲銘秋女塾▲女子職業學校の出  
 品▲聖路易博覽會▲臺灣女子留學生▲香港動物虐待禁止會の活動  
 ▲天氣保險業▲新刊の讀物▲兵庫縣通信▲交詢欄▲會報

も ど 子 と 人 婦  
號 拾 第 卷 參 第



風 の 神 (ついで)

やまとの翁

團右衛門の家では、おかみ  
 さんや子供らが、後に残つ  
 て大變心配致して居ります  
 と、そこへ、ひょいと團右  
 衛門が歸ってきまして、

「やー、今歸ったよ、之か  
 らは、みんな心配しないで  
 いーぞ、食べるものは何ん

でも、己れが出してやる」

なぞといつて、大事の袋は、もうとっくにすり代へられて居るのもしらないで、獨りで喜んで居ます。

おかみさんは、團右衛の容子をじっと見て居ましたが、之はどうもおかしい、ひよっとすると氣でも狂ったかも知れないと思ひましたが、まづ、黙って子供らと一所に其處に座つて、團右衛のする事を見て居ます。

すると、團右衛は、大切そうに例の袋を取り出して、大きな聲で、

「袋よ袋よ、御馳走を出してくれ」

と呼びましたが、袋からは何も出て來ません。そこで、も一度

大きな聲をして、

「袋よ袋よ、子供らに何か御馳走を出してくれ」

と呼んで見ましたが、一向返事がありません。團右衛はもう堪らなくなつて

『さっき酒屋では、己のいふ通りに出したじやないか、夫に家へ歸ると、何も出さないと、怪しからぬ奴じや』

と、いって、いきなり太い棒を持ってきて、さんぐ袋たゝきにして、も一度風の神に遭つて來ようといつて、又々出かけて行きました。家では、愈氣狂になつたのだといつて、おっ母さんや、子供らは大騒ぎをして居ます。

夫から、團右衛は急いで風の神の所へ行きました所が、風の

神さまは、丁度いーあんほいに家に居て、

「やー團右衛、また来たな、今度は何しに来たのだ、袋をやっ

たのに、あれはどうした？」

と聞きました。そこで、團右衛は、

「まー聞いて下さい、あの袋のお蔭で、私は辛い目に遭いました。」

「フーン、どんな目に遭った

『こーいふ譯です、折角大事にして持って歸りました所が、一向御馳走も何も出してくれません、だからあんまり腹が立ってとうぐ袋たゝきにしましたが、女房や子供らは私を氣狂だといって居ます。で、今度は何か代りのものを頂きにきました。』



『オーそうだったか、夫は氣の毒だった、では代りに此羊を一匹やらう。何時でも錢が欲しくなったら、『子羊よ、子羊よ、金をお出し』といふと、幾らでも撒いてくれる不思議な獣だ、但し、途中で、酒屋によつては いけない』

といつて、風の神さまは親切に又た一匹の羊をくれました。

團右衛門は、大喜びで丁寧に禮をいって歸りかけましたが、途中で、又前の酒屋の前を通りかゝりまして

『あんなにいったが、此羊が金を撒くとは一寸不思議だ、眞實か知らん、此酒屋で一つ試して見よう、寄つてはいけないといつたが、なーに見て居ないのだから、大丈夫、知れる氣遣なしだ』

と、いって、止せばよいに又々酒屋に這入りました。

六

酒屋には、又大勢の若い者が居て、金を持って居ないから酒は呑まされぬと意地ぼるから、夫ならといふので、團右衛は、つれてきた羊に向つて

『子羊よ、子羊よ、お金をおだし』

と呼んで見た所が、驚くべし、其羊は兩脚で以つてバラくつと澤山な金を撒き出したから、之には若い者等も驚いた。團右衛は、「そら、どうだ」といふ様な顔附をして「いゝから、皆來てその金を拾ひ集めるのだ」といふと、みんなよつて來て、吾も吾もといつて拾つて居る。

すると、その主人は、團右衛に、どうか其小羊を賣つてくれ

まいかといひ出しました、然し團右衛は、どうして、之を賣つて、たまるものかといつて、中々承知しない。そこで、又々團右衛に澤山お酒を呑ませて、其眠って居る間に、よく似た他の小羊を連れて来て、團右衛のと、そつと代へて置きました。

團右衛は目が醒めて、すり代えられた事は知らないで、宜い心持で、急いで家へ歸りますと、子供らは、氣狂のお父っあんが歸つたといふので、恐がって逃げて廻はって居るし、おかみさんは、何だか、ぶつ／＼言つて一向構つてもくれません。然し、團右衛は獨りでこ／＼喜んで

「さあ、そこえ敷物をれしき、今に澤山なお金を撒かせるから」といひます。おかみさんは、氣狂だと思つても仕方がないから

言ふ通りに、敷物を敷いて子供らとちゃんと座って待って居ると、團右衛は、羊に向つて

『小羊よ、小羊よ、お金をおだし』

と言つて見たが、羊はたゞ黙つて立って居ます。之は變だと思つて二度も、三度も呼んで見ても、いつまでも黙つて居るからさ、團右衛は怒つて仕舞つて、いきなり太い棒を持って来て其羊をなぐり殺して仕舞ひました。

おかみさんは、愈本とうの氣狂だといつて歎いて居ますと、團右衛は又々、家を出て風の神の所へ行きました。

行きますと、丁度風の神さまが家に居て、

『おや、又やつて來たな、あの羊はどうした？』

とお尋ねになる。そこで、團右衛門は、あの羊が一向金を撒いてくれぬから、とうく打ち殺して仕舞ったといふことを咄して、代はりに又何か下さいと言つて見ました所が、神さまは、

「お前、何故、私の言ひ付けを守らないで、酒屋へ這入ったのだ？と尋ねますから、團右衛門は、そ知らぬ風で

「酒屋！あなた、夫はこの酒屋へ這入ったといふのです？と空とぼけて、聞きましたので、さし、風の神さまは、大變に怒つて、

『こら、お前は、何も己が知らぬと思つて居るな、よし／＼そんな嘘を吐くなら、今に辛ひ目に遣はせるぞ』  
と怒鳴りながら、手近に置いて居た太鼓を目がけて

「家來ども、出て來て此酒呑を打ち懲らして仕舞へ」

と命令しました所が、怪しむべし、其太鼓の中から、かひくしく装った大男が、十二人飛んで出て、いきなり團右衛を取つて抑へつけましたから、團右衛は慄へ上つて、眞青になつて、『や、お宥し下さい、全く私が悪うございました、酒屋に這入つたに違ありません、あ苦しい、御免く』

とあやまりましたから、風の神さまは、又

「家來ども、這入つて仕舞へ」

と命じますと、十二人の家來は、又音なく太鼓の中に這入つて仕舞ひました。

そこで、團右衛は、神さまの命令に背いて、酒屋に這入つた

のは全く悪かったといつて、心から白状しました所が、神さまは、夫では前の袋も、羊も、皆酒屋で、すり代へられたのだから今此太鼓をやるから、之を以て行ってすぐ取り返して来いといつて、其太鼓を團右衛にくれました。

夫で、團右衛は、其太鼓を貰つて、風の神さまに、厚く御禮を申し上げて、すたくと、酒屋に押しかけて行って、袋と、羊の取り返しの談判を始めましたが、酒屋の者どもは、そんなものは知らないなどといつて、一向取り合いませんから、團右衛は、いきなり太鼓の方向いて、

「家來ども出て来て、此惡者どもを懲らせ」  
と申しました所が、例の十二人の者どもが、すぐと躍り出て、

大勢の者どもを一々取って押へました。團右衛は其眞中に立つて、『さうどうだ、之でも返さぬか』とせめつけましたので、大勢の者らは、苦しくって仕様がなから、命だけは助けて下さいといつて、とうとう彼の二品を出して來ましたから、團右衛は若い者らを宥してやつて又元の通り、家來どもを太鼓の中に入れてしまつて、無事に彼の二品を取り返して、喜び勇んで家に歸りました。

夫から、家へ歸つて見た所が、おかみさんは、もう恐くなつて中々表を開けてくれませんかから、之ではいけないと思つて、團右衛は、例の太鼓から家來どもを出して來て、難なく開けさせて這入つて行きますと、子供らまで、お父っあんが氣狂だと



いって寄って来ません。之も仕方がないと思つて、先づおかみさんに、『今度こそは、本とうに金を撒かせて見せるから』といふので、敷物をしけと申しますと、おかみさんも、いやくなから風呂敷などをしいて見て居ます。

すると、團右衛門は其引張って来た小羊の方を向いて、

『小羊よく、お金をおまき』

と命じた所が、さあ、まいたともくバラくバラくつと幾らともなく撒き出す。之にはおかみさんも吃驚しました。遠くから、此有様を見たり子供らも、『やー之は面白いなー』など言つて、飛んで歸つてきて其お金を集めるといふ騒ぎ。

暫くたつてから、今度は御馳走にしようといふので、例の袋を

出して、

『袋よ袋よ、何か御馳走をおだし』

といった所が、之も不思議、すぐと、いろくの御馳走がお膳の上  
に井びました。そこでおかみさんも子供らも、皆寄つて、

これはおい

しいおい

しいと言っ

て頂きまし

た。

こんな具合

ですから、



團右衛門の家

は、大變な



お金持になつて、おま

けに何事かといふと、

太鼓の中から、例の家

來どもが出て來て、働

いてくれるのですから、

今迄の貧乏とはうって

代つて、まことに結構な身分になりましたが、夫からといふも

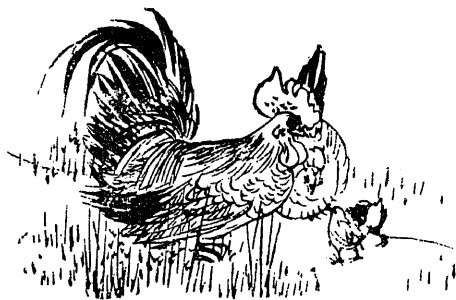
のは、お酒を呑むこともやめて、今迄よりかも、一層正直な人

になつて大變な繁昌をする、兄さんの方も、今迄は、お金持で



夫の金

貧乏な弟を輕蔑して居ったのですが、之からは仲もよくなつて、  
團右衛門の一家は、いつまでも、いつまでも、繁昌致しましたと  
さ  
めでたしく



## ブロッサムの話

(上) 手紙

アメリカ合衆國ワシントン州の、ある片田舎の百姓家の一室に、今宵主人のアウエンと御客のアーレンといふ宣教師とが、テーブルを真中に次の様な話をして居ます。

主「眞實にアーレンさん、私やベンニーを兵隊に出してやった其時は、國中で親として、私程立派な捧げ物を此國にした人は、恐らくあるまいと思ひましたね、イーエ誰一人ありません、わの子は哨所であつた一分間眠つた許りです、チー貴下、ほんの一分間です。私やもう大丈夫だと思ひます、どうして、彼は中々、勤務を粗にする様な子じやありません

たつた一秒眠つた許りだと思ひます、何だつて年もとつて居ないし、夫に身體もあまり丈夫でもなかつたのですもの！、尤も、脊の高さといつたら、そりや私程もありましたよ、けどもまだ、やつと十八になつた許りですよ。夫に哨兵勤務中眠つて仕舞つたといふのでどうく銃殺される……二十四時間内にといふ電報ですが、もう二十四時間、ア、今頃ベンニーは何處に居るんでせう？

客「どうも、まことに御氣の毒な次第で、然しまた天の神さまが、何とかして下さるでせう

主「なる程、なる程、吃度どうと加してくるに違ありません

エート、出て參ります時も、ベンニーは左も右も慢相に右の腕を私の前に突き出しましてね、お父さん、私はね、いざといふ時に此太い右の腕を國

の爲に使ふ事が出来ないかと思うと耻かしくって耻かしくって堪らなかつたのです。鐵など持つてゐるよりはいつそのこと委えてしまへばいゝにと思つて、と、こゝろいふのですもの、夫から私しもね、じや一行け、行て國の爲に働いて來い、神様がお前を守つて下さるからといつてやりましたよ、チー、アーレンさん、眞實に神さまが守つて下さつたと思ひます、神さまが…」



志望堂

といつて、尙心で神さまを疑つて居る様子で、しきりと口の中で、夫をくり返して居ます  
 アーレンは、玄つと聞いて居ましたが、重そうな調子で  
 「そうですとも、決してお疑ひなさるには及びません」  
 といつて居ます。  
 ブロウスムといふのは、ベンニーの妹で、可愛らしい娘です。前程から二人の側に黙つて腰かけて

居ました、涙こそ流しませんが、頬の色は眞青になつて居ます、けれどもプロツスムがどれ程心配して居るかといふ事には誰も氣が付きません。暫くすると、とん／＼と戸をたたく音がしましたからプロツスムが、すぐ立つて行きました所が夫は郵便配りでした。受取るが早いのか、プロツスムは、一言、「オヤ、兄さんからののですよ」と言つて急いで持つて來ました。丸で死んだ人から、音信があつたかの様でした。お父あは手紙を受けとりました、手がブル／＼ふるへて、封を切る事が出来ません。丁度小さい子の様な風にアーレンに渡すとアーレンはすぐ封じ目を切つて讀み始めました。

さし急ぎ一筆申し残し候。此書面御落手に相成る頃は、もはや私は此世を去りたる頃と存し候。

始め銃殺の宣告を受け候時は、何となく恐ろしく存じ候ひしが、只今では何の恐れも無く候。承はり候へば私は縛られもせず又は兩眼を覆はれも致さずながら丈夫の如くに死に付くことが出来可申由に御座候。然しながら國の爲め勇ましく戰場にて戦死することを丈夫の本懐にも候はめ、哨兵の任務を怠り候との故を以て、銃殺の犬死をなすかと思へば、そいろに淺ましく存じ候。勿論之には深き子細有之、決して父上の名譽を汚す譯には之なく候へば、左に一通り申し述べべく候。何卒私の死後に於て父上より宜しく友達などへお話し下され度候。

御承知の通り、出軍の際私はジエムミー、カールの事は精々注意致すべき由、彼の母親に約束致したる事に候へば、カールの病に罹り候節の

如きは、私の力の及ぶ限りを盡し候。隊に返る命令を受け候時も、カールは尙十分力づき申さず、夫故あの晩の前日の行進中私は私の荷物の外にカールの行李まで一切背負ひて進み候處日暮方より私共は驅足を始め候所脊中の荷物重さは非常の苦痛を感じ來り候。此時はもはや一隊悉く勞れ果て、ジエムミーの如きは、時々私の腕を貸すことを致さねば、必らず道側に斃れたる事と存じ候、か様な次第にて營所に着いた候時は、私はもう全く疲れ果て申候。然る處其夜は生憎ジエムミーが、哨兵勤務の番に當り候へども、餘り可愛生に候故、私は代りて勤務致したる事に候へども、如何せん餘りに疲れ果て候事として、父上、例令鐵砲を頭上に指し向ければ候とも目を覺まし居ること出來難さまで

に相成り、自ら驚きて目を覺まし候時は、もはや後れて間に合ひ申さず

『オーエンさん、どうですどうもペンニーに限つて譯もなく眠つて仕舞ふ様な事はないと思つて居たが、なる程天晴な者だ』

承はり候へば、敬愛すべき我が大佐は今日私に父上へ書面を出さんか爲め、暫くの猶豫を與へくれ候由、此大佐は誠に親切な方にて、出来るならば喜んで私を放免下さる事と存じ候へども、軍規上致し方なく私を處罰致さるゝ事に候。又何卒今回の事に由り、ジエムミーを悪しからず覺し召し下され度候。ジエムミーは只今の處、丸で狂氣の様に相成り私の代はりに自分を處刑せられん事を歎願するの外何事も得致さずまことに不憚に存じ候。



母上やプロツスムの事は父上宜しく御願ひ申上候。何卒父上より私が立派な勇士の如くに死に付き候事を御傳へ下され度候。まだく申し述べたく候へども思ひ迫りて筆動き申さず、之にて失禮致し候。

嗚呼今夕はいつもの通り牝牛どもは、夫々牧場より歸り居り候はん、可愛き妹のプロツスムは裏門に立つて嘸かし私の歸宅を喜んで待ち受け居らるゝ事と存じ候併し。私は、嗚呼私は遂に歸ることは出来申さず候。何卒く先立ち候私の罪は御ゆるし下され候て、末長く御息災に御喜しの程神かけて祈り申候。 敬具

ベンニーより

父上様

(下) 命乞ひ

其夜も更けて、もう周圍もすつかり静かになつた時分、此家の裏門の戸を密と開けて出て、水車場への道を急いで行く小さな娘があります。其足の早さといつたら、歩いてるよりか寧ろ飛んで居る様なものであります。

二時間許り過ぎて、此娘は、其處のステーションに着きました。そこで夜の終列車の來るのを待つてすぐ飛び乗りました。

此娘といふのは、即ちプロツスムで、今からワシントンに行つて大統領のリンコルンに遭つて兄の生命乞をしようといふのであります。尤も家は内所に出たので、たゞ何所へ何しに行くといふ事だけを書き遺して、兄ベンニーの手紙をポケットに入れて來たのです。途中の停車場を幾つとなく通り過ぎて、急に急いでとうとうワシントンに着

いたので、大急ぎで大統領官舎へ向け走りました

大統領リンコルンは、此朝も早くから出勤して、必要な書類を餘念もなく取り調べて居ますと、取次もなしに、室の戸をそつと開けて、可愛い、プロツスムが、うや／＼しい姿勢で這入つて來ました。で大統領は、あのやさしい愉快相な聲をかけて、

『オー、お前こんな疾うから、何の用で來た？』

『ベンニーの生命を、どうか！』

『ベンニー、ベンニーといふのは？』

『ハイ、私の兄さんのことで、哨兵勤務を怠りました爲に、銃殺せられる所なんです。』

夫と聞いて、大統領は急に机の上の書類に眼を走らせて、

『オー、そ／＼！夫なら分つて居る、然しお前

あの時は大變危い最中で、ひよつとかすると、もう少しで何千人の生命にも係はる位な大切な勤務を怠つたのだよ

『ハイ、お父／＼も其通り申して居ました。夫でも兄さんは、あんなに疲れて居ましたし、夫にジエンニーは病氣でありましたし、閣下、ベンニーは二人前の働きをしましたのです。夫から、あの晩は、眞實はジエムミーの番でしたのですが、彼の人にはもう疲れ切りましたから、夫で兄さんが代つて勤めたのです。』

『ハテナ、お前何をいつてるのだ、さー此方へよつてもつとはつきりお話し』  
 といつて、まことに親切な方ですから、プロツスムを引きよせました。

プロツスムは恐る／＼近寄りまして、又其話を

仕直してボッケットから兄の書面を出して大統領に渡ししました所が、大統領は一言一句丁寧に讀み終りまして、夫から、大急ぎで何か書か付けて呼鈴を鳴らししました。『スグ此使を出してくれ』と這入て來た給使に言ひ付けました。そして置いて又、ブロッサムの方を向いて、

『さー、もう之で宜いから、家へ歸てお父さんにアブラハム、リンコルンはベンニーの生命は銃殺の刑に處するのは餘りおしいから、罪は宥す事に決めたとお話下さい、さー、お歸り……イヤまー明日まで待つて居て、兄さんと一所に歸るかな、兄さんは、非常な手柄だったから、今に出世して明日歸らせることにしよう

ブロッサムは、この親切な言葉に對して、お禮の言ひ様もない位に有り難いと思ひました。

夫から二日たつて、ベンニーはブロッサムをつれて大統領官舎に参りました。参りますとすぐ大統領の居間へ通されましたが、そこでベンニーは兵卒から陸軍少尉に昇進せられました。其時大統領の申しましたには『病氣の友達を助けて、其爲めに何もいはないで死に就かうとする程の兵卒は實に國家に取つて、最良の軍人といふべきじや』

夫から、ベンニーとブロッサムとは、いろ／＼親切に大統領からお話を聞いて、目出たく二人連れで、お父あんの所に歸つて來ましたといふことです。

### いそつぶ物語

#### 其三十四

犬と牡牛

一匹の犬が、まぐさ桶の中に這入て居て、牡牛と

もが其の中のかれ草を食へに來ますと、しきりに齒をむき出して、吼へたりうなつたりして邪魔をします。すると一匹の牡牛が、連の牛に申しますに『マー何だつて此犬は慾張りじやないか、自分でかれ草をよう食へない癖に、他が食へに行かうとするや邪魔するのだもの!!』

其三十五 牡牛と車の軸

牡牛が重い車を引いて、田舎道をやって行きますと餘り重いので、車の軸が辛棒しかねて、恐ろしくなり響いて叫びます。そこで牛は後向いて『オヤ、なぜ君はそんな大きな音をさせるのだ、一體こんなに骨折てるのは、君でなくって僕だよ、だから、君よりか僕の方が叫び出すのが本當じやないか』

一番多ク苦シム者ハ一番少ク叫ブ

其三十六

一匹の獅子が年老つて、もうとても力づくで獲物を取つて食へることが出来ませんから、一番計略でやつて見ようと考へました。夫で毎日洞穴へ引込んで病氣で寝て居る風をして、なるべく太ぎように世間へ知れる様にして居ますと、獣どもは、夫を聞いて見舞にやつて來ました。すると其獣どもを、一匹づゝ片端から食へて仕舞ひますこんな具合に澤山の獣が食へられてから、狐がひよつと其計略を見附けました。夫で或日見舞にやつて來ましたが、決して洞穴の中には這入らないで、外に立つて丁寧に見舞の言葉のべて居ます。すると獅子は中から『私はこんなに病氣なのに、お前さんなぜそんなに外に立つて居るんです、まわ這入つて來て一寸見て下さい』と言ひますと、

狐は「やー、ありがたいがまー、止ませうよ、  
貴下所の穴には、這入って行つた足跡が澤山ある  
のに、歸つて来た跡は一つもないじわありませんか  
他人ノ不運ヲ見テ自ラ戒メル人ハ賢コイ

●考へ物二つ

(一) 足も羽もなく、動く機械もなく、世界中を廻  
つてるもの、これなわに？

(二) 毎日く進んで行って、決して戻らないもの、こ  
れなわに？

●前號なぞの解

(一) 秋の虫とかけて。 答 ふらりん

心は風吹く毎に「りんく」(ヌゴ虫) チンチヨ虫  
「ちんく」の音が  
する

(二) 夏休のお仕舞とかけて。

答 四國の西は

心は九州か(休終夏)

高 知 松岡 キクエ

他にも大分来ましたが、題があまりよくなかつた爲か甘く出  
来たのがなくつて、先づ右に擧げたのが、其中で面白いと思  
ひましたので、之を當選にしました。

ゆ き 子

おなぐさみ 在三河安城 久永みち子

愛讀者諸嬢!!! 徒然の餘り、仲のよいれ友だちをあ  
つめて、次のよーなタワイナイ遊をして、抱腹絶  
倒遊ばさるも、又一興で御座いませう。

やつて御覽あそばせ!!!

早口に云ひにくい語

向うの土手を唐人が提燈持つて通る。

有馬玄羽さんの玄關番の番台羽。

向うの壁へ竹立てかけた。

(おしまい)

# 家庭



## 訓練の統一 (承前)

家庭内で訓練に統一を保って行かねばならぬ事は前號述べた通りであるが、さて次には家庭の訓練と外界の訓練とに統一がなければならぬ。

外界の訓練とこゝでいふのは、子供に對する社會の感化である。いふまでもなく、社會が子供に及ぼす所の影響、感化の力といふものは存外力のあつるもので、子供を育て、行く其周圍の空氣が、不良であると、其處で育つ子供はどうしても不良の

影響を受ける、どれ程家庭の内部で、皆が方針を同じくし、精神を一つにして懸け方に注意しても一旦子供が外に出て交はる所の友達がよくない、其邊の人情風俗が下等だと、折角の家庭での骨折が丸つきり水泡に屬することにもなる。

何時だったか或地方で、高等二三年の女生徒を集めて話をした時分に、學校を卒業してから、何になるかと尋ねて見た所が、豈に計らんや、其中の多數の生徒が藝妓になりますと答へたのには驚かざるを得なかつた。如何にも不思議でならないで、だん／＼調べて見た所が、夫等の生徒は、皆藝妓街から通學して居るのであつた。

社會が子供の精神に與へる感化影響の甚しい一例は之でも分る、此様な空氣の中に居て、よしどれ程家庭丈けで注意した所が、果して何の甲斐が

わらうか、之に付いても今更の様に思ひ出されるのは、彼の孟母が其子の教育の爲に三たび居を遷したといふ話である。一度は其住所が商賣地であつたが爲めに我子の孟子は、商賣の眞似許りをする、之では行かぬといふので、轉居した所が今度は、紀寺の近邊と来て、其爲に孟子は葬式の眞似に心を奪はれる、之でも行かぬといふので、今度轉居した所が、學校の近邊へ行つた、すると孟子は、此度は一生懸命に學問の眞似を始めた、そこで、此處以て我子を養ふに足るといふので、遂に其處に居を定めたといふ事は、人口に膾炙して居る話である。朱に交はれば赤くなるといふのも、つまりは此邊の消息を意味するのである。

即ち、家庭の訓練と外界の訓練との統一とは、つまり、自分等が子供を養つて行く上に、反對の

影響を及ぼさない住所を定めることである。家庭の内部の中はどうか、折合がつくにしても、社會のことを自分と同主義にする譯には行かぬ、だから、仕方がない、子供の教育上面白くないと思ふ場所は、此方から立ち退くより外に仕様がないのである。

夫から、子供が稍成長すると、今度は幼稚園なり學校なりへ通ふことになる、さてこうなると、又大に考を要する。同じく外界の訓練ではあるが社會の方は別に社會が考へがあつて、其子供に感化を與へるといふのではない、言はば自然の感化である而し幼稚園なり學校なりは、實際種々考へて教育を施すので、こゝに至つて、子供の教育は内(家庭)外(學校)二種の關係となるのであるから、此の關係に統一が付くと付かぬとに因つて、

教育の結果に非常な差異を生じる。

だからして、幼稚園や學校の方では、なるべく其教育の方針を家庭と一にしよといふので、いろく〜と考へを廻して居つて、其方便として例令ば懇話を開いて父兄を招待して互に教育上の意見を聞き打ち合はせたり、又は平生でも来て子供の有様を見て貰つたり其他通信簿などで家庭に向つて、子供の心身の發達の有様を知らせる様な事をして居るのである。

(擊水)

### 復讐心の煽動

美波ゆや子

一體に子供と申すものは、私の強いものであります。一方から申しますと、小さい時分から其我を養つて行くことは、大切な事でありまして、將

來成長の後立派な守る所のある人物となさうと思ふには、之を適當に培養して行くことにあると思ひます。

然しながら、之は餘程氣を付けませんで、たい無闇と我を通して我儘にさせて行きますと、必ず我儘一偏な、人はどうでも自分さへよければよいといふ様な者になつて行きます。ですから、無理な所へ我を通してといふ事は、どうしても子供の時から抑制して行かねばなりません。

其私の強き性質から、子供と云ふものは、餘程復讐心に富んで居ります。此復讐心といふ事も、人間には適當に培養されることも必要な場合がありますませうけれど、然し一般の場合に於ては不徳の様です。自分が苛い目に遭つたから、遭はした人をも同じ目に合はせるといふので、子供の發達し



ない道義心どうぎしんとしては、かゝる情じゆうの存在そんざいすること極めて自然じぜんです。然し既しにかゝる情じゆうは一般いっぱんに不徳ふとくの種子たねであつて見れば、子供こどもを養育よういくして行く上うへに於て、成るべく自然じぜんに消滅しょうめつさせて行きたいのですが時ときとすると、吾々われわれは、反かへつて此情このじゆうを煽動せんどうし此情このじゆうを培養ばいようするといふ様ような所置しよぢを取とつて居ゐることは珍めづしくありますまい

『オー、お前まへを打うたかい、可愛相かわいそうに、夫おとじや母かあさんが打うつてやらう』とはよく聞く言葉ことばでありますか。子供こどもは無生物むせいぶつ例たとへば石いしくれでも、木片きへんでも皆みな自分じぶんと同じ様ような考かんがへ、感かんじもあつた物ものとして居ゐます。ですから、時ときによると、石いしにつまづいて泣なき出だす。其時そのときに傍かたわらから、其泣そのなくのをとめようと思おもつて、『オー此石このいしが坊ぼやうを痛いたい目めに遭あはせたの？ 悪わるい石いしだと、打うつてやらう、さ、打うつてやったから泣なくの

を止とめし』考かんがへて見みますと、こゝろ云いふ例れいが澤山たくさんありませう、一時いちじ子供こどもの泣なくのを已やめさせる爲ためならば、他ほかにいくらも方便ほうべんがありませうに、此様このような方便ほうべんを使つかふといふのは、さなきだに、我がの強つよい、復たが離心しよしんの盛まかんな子供こどもを一層いっそう煽動せんどうして此情このじゆうを培養ばいようする様ようなものであります。

人を憐あはれむとか、人ひとのつらさを察さつしるとかといふ高尚こうしょうな道徳どうとくの種子たねは、出で来るだけ早はやくから培養ばいようして行ゆきたいものであります。前まへ申まうした様な方法ほうほうは、どうしても此考このかんがと反はん對たいして居ゐませう。ですから、あの様ような場合ばあひには、こちらが痛いたい目に遭あつたから、向むかふも痛いたい目に遭あはせて夫それで、泣なき已やませようとししないで、こちらも痛いたいが、向むかふも同じ様おなじように痛いたいのですから、我慢がまんをふしとか、向むかふも痛いたいのですから、撫なでゝおやりとかいふ様ようにしたならば宜よろし

いと思ひます

子供が無生物とか、動物などを自分と同じ様な心  
を持って居ると思つて、夫等を自分の仲間と見る事  
は、大變趣味のある問題でございまして、之に依  
て、小さな道徳上の感情を興へることが、澤山出  
來ますのに、考へないで居ますと、夫が出来ない  
のみならず、反つて反對の情を煽動する様な場合  
が澤山あるのは歎かましい事と思ひます

家庭閑話

その子

▲女の子三人ある家には盜賊入らず、日々三通以  
上の郵便ある家は、どうにか經濟の融通つく道あ  
りとは古人より傳はれる諺にこそ。

▲去りながら、誰か女の子を不生産的と敢て言ふ。

さらば男の手一にて何程の生産をなし得べしや、  
誰か一家の妻を勢力なしと敢て言ふ、并びが岡の  
法師は言はずや「されば女のかみすぢをよれる綱  
には大象もよくつながると。

▲家庭の治まらぬとて、もはら男をのみ咎むべし  
やは、さるは主婦の意氣地なきことをぞあらはず  
める、大象をもつなきとむべき女の方もて、何す  
れぞ一人の男を得つなござる事やある。温順なる  
妻は夫の命令者なりと申す事の侍らずや An obedi-  
ent wife commands her husband.

▲戀は神聖なりとは、何日如何なるすき者の言ひ  
出でたりけん、戀こそ曲物、嫉妬の姉妹、萬の罪  
の母なるを、さてもく、何れは玉の盃そこなき  
にも似たるかなど口すさみけんえせ詩人原の晝寢  
の言の葉にもやあらん。

▲真理は古今東西變ることなし。牝雞の晨をつぐ  
るは家の不祥とは、女そのみ尊ぶと傳ふめる西の  
國にもある諺と聞く It is a sorry house in which  
the cock is silent and the hen crows.

▲單獨の生活は罪の伴ふ自由なり Single life is  
guilty freedom と申す事の侍り。生涯妻を迎へ  
ず、一生夫取らずで過ごし行くこと、すことに一身  
上自由には相違なきも、ざりとは、宗教上の勤  
に靈魂を忘れ、畢生の事業に身を捧ぐる様の事な  
くて、平凡の人ならんには、單獨の自由にて然か  
も精神の修養、品性の圓滿を期すること、困難な  
らずとは申されじ。

▲善く夫は善く妻を作る Good husband makes a  
good wife とは、げに理ある言葉なりけり。妻あ  
しとしてうちかこつ夫は、自ら價値なきことを示す

ものにあらずや He who does not honour his wife  
dishonours himself.

### トマトー羊羹の髓らへ方

瀧の川の康樂園へ行た所が、折柄トマトーが澤山  
できて居た。いろくのトマトー料理をして見た  
末トマトー羊羹を髓らへたといつて、夫人の話さ  
れた仕方を覚えて、歸つてやつて見ました其拵ら  
へ方は先づトマトーの適宜の大きさのもの五六個皮  
むきて煮て、其汁をすいのうにてこし、角天一本  
に煮汁二合割合に、砂糖好みに仕せて交ぜ煮つめ  
た後に重箱に入れてさまして置きますとまことに  
色の美しい、淡泊した羊羹が出来上ります。

### 牛乳の與へ方

牛乳と水との加減は一寸、六ヶ敷いものですが大抵は次の表に示す通りで宜しい。

一ヶ月以内 牛乳一—水三

二ヶ月 一—二

三ヶ月—五ヶ月 一—一

六七月 二—一

八月 三—一 或は純乳

九月 純乳

時間は普通二時間半乃至三時間に一回とし、分量は一回凡そ八十グラム乃至百五十グラムが適當でせう。



### 想像作用

松本孝次郎



幼兒の心力作用は初には緻密な心力に由らずに大抵の事は想像でやるのである。故に大人から考へると想像もできぬ事を幼兒は想像でチャンと説明して居る。此時代には想像が強く、殆ど空想と言てもよい位であるが、進で段々確實な知識を持つやうになるのである。それで想像は兒童の遊戯の際にその働らきをあらはすものであります、今遊戯のことに就て一言致します。

幼児の遊戯といふものに付て考へるに、一体昔の人の知力ちりきは今の幼児えいじほどのものであつた處から、昔の大人の遊戯ゆうぎは今の幼児の遊戯位ゆうぎらいのものであつた。我國わがくにで昔むかしは大人おとなが竹馬たけうまに乗つたりカケッコをして遊んだ、英國えいこくでも今の幼児えいじのなす或る遊戯ゆうぎは「エリサベス」時代の舞踏ぶだうであつたといふことである。それから今の人は遊戯ゆうぎを教育的きやういくてきに利用しようとするが此この考かんがえは昔むかしからある。貝原益軒かいばらえきけん先生せんせいは遊嬉ゆうぎをうまく利用りようするといふ考かんがえは持て居もつられなかつたけれども、体育たいいくの爲ために幼児えいじにやらせるはよしと考へて居かんがえられた。即ち日本すなはち ほんでも教育的きやういくてきの思想しきやうを遊戯ゆうぎの方ほうに入れて考へて居かんがつたことは、たとへば足利時代あしかが だいらいの玩具おもちゃ「ブリーク」は農具のうぐを摸もしたもので實社會じやかいに用ふる準備じゆんぶとして農のうを重おもずるといふ考かんがえを入れるといふ點てんから用もちひさせましたのである。徳川とくがわ

時代じだいには之これを儀式ぎしきに用もちひ實際じつさいの玩具おもちゃとして用ふる事はやみましたが初めはじめの考かんがえはこうであつたのです。又太平またたいへいの世よには戦争せんそうがありませんから、此考このかんがえを入れる爲ために五月人形ごがつにんぎやうなどいふものもはじまつたでありませう。又戦争またせんそうのまねをして川かはをへだて、戦つて見るといふ遊あそびなどもありましたが、いづれも皆太平みなたいへい時に戦時せんじの知識ちききを與あたふるもので後に大儀おほいぎ式的しきぎには傾かたむきました。昔むかしは實地演習じつちえんじゆの爲ために教育的きやういくてきの精神しんしんを以て行つたのでありませう。其他そのた今日こんにちにも傳つたはつて居る遊戯ゆうぎに付て考へるに、たとへば「ニラミッコ」は敵あきをにらみ威いを示しめす必要ひつたうのある亂世らんせいに起つたのでありませう。又腕またうでたし、脛すねたしすわりすまうなども戰場組打せんじやぐみうちの練習れんじゆでありませう。こういふ風ふうに或時代あるじだいに起つた遊戯ゆうぎを考へると必ず其時代そのじだいにかなつた教育的精神きやういくてきしんを有て居るものであ

る。

吾國の遊戲に付て考へるに徳川時代には理科的知識が表面は壓制されて十分發達しなかつたにも拘らず、幼兒の玩具に於て其理科的知識の殘て居る事を認めます。けれども維新の際諸物破壊の時代に徳川時代の此類の玩具で失はれたものが多い。故に日本の玩具遊戲に付て考へても研究の材料はあるのである。但し日本の昔時は之等に付てまゝめて組織する研究するといふ事はなく又幼稚園のやうなものははじめるといふ事もなかつた。幼稚園といふものを創めたのはフレイベル氏であるが一体獨乙人は何をするにも宗教をはなれぬので、從てフレイベル氏の作業恩物皆神といふ事はなれぬ。もし英國にフレイベル氏が出たならば社會の實利實益を中心として組織したのであるかと考へ

る。處がフレイベル氏は獨乙に出たものだから宗教の中心をとつた。日本では此宗教中心を改良して社會の實際を中心とするやうにしたいものである。

今日の教育は實地の經驗實驗に基くべしといふことになり、精神教育と躰育とは離るべからざる關係をもつて居ることが認められました。そして教育の可能性の足らぬものは身体に足らぬ處あるに よるといふことになつて居る。そこで遊戲に於ては幼兒の身体及精神上の特質を見る事ができる。かくして從て保姆教師は之に由て様々の事を發見する事ができる。たとへば活潑な子は遊戲に於ても活潑に、又のろい子は遊戲の時ものろく、其他 身体の欠點をもわらはしめます。故に教師が一人一人に質問し又は檢査をするよりは却つて幼兒相

互に遊戯して居るのを觀察する事に由て多くを知  
 る場合が多い。現今教育的病理學に於ける材料應  
 用にはぜひとも遊戯の觀察をしなければならぬ。  
 これに由て可能性の如何を知り、何よりも先づ可能  
 性を養ふべき事をさとするやうになつて來た。殊に  
 日本の今日のやうに特別な兒を扱ふ設備のない處  
 では特に個人に付てよく觀察して訓練の材料、家  
 庭への注意の材料を得なければならぬ。他の場合  
 には幼兒は慎むから本性を見る事ができぬ。遊戯  
 の時の天真爛漫な有様を見てよく考へるがよろし  
 い。

教育の源は可能性を養ふにある。よく觀察注意し  
 て身心の欠點を補ひ可能性をよくしなければなら  
 ぬ。之は教育的病理學の應用である。

次に遊戯の教育的價値に付て述べん。

- (1) 感覺的機關の作用發達を完全敏捷ならしむる事  
 實物教授をするにしても各兒の感覺機關をよくし  
 て即ち其可能性をよくして置いて然る後に實物を  
 見せるべきで殊に今日のやうに多くの兒を一しよ  
 に取扱ふ時にはまづ一しよにしてよいだけに可能  
 性を養ふ事が甚だ必要である。しかし遊戯は此  
 感覺教育に付てたしかに必要な事である。
- (2) 注意力を養成する、即ち鋭敏ならしめる。
- (3) 摸倣の作用を強くするのも遊戯に於てすべき一  
 の仕事である。教育に關する作用の中摸倣は一  
 の必要なる作用である。摸倣の不確なのはよく遊戯  
 の際にたしかにしてやるべきである。
- (4) 幼兒の觀念界を擴むる事必要である。なるべく  
 いろくくの事物を経験させるがよろしい。
- (5) 想像力を養ふ。

(6) 判斷力を増すやうにすべきである。即ち同物を集むるとか、異なる物を區別するとか。簡短な事に由て類似差別の分類をさせるなどは判斷力養成によい事である。

(7) 感情及意志を養成する。たとへば自分といふ考の弱きものはよくなほしてやらねばならぬ。自分はダメと思はせぬやうに働きて結果のあらはるゝやうな事をさせて事物の成效の愉快を知らせると段々に進む。即ち自分の力を認めさせるのである。

(8) 我儘な兒を遊戯に於てなほすがよろしい。一体我儘といふは我意を通させすぎたもので四才位には天然に我意を通さんとする傾があるもので之を正すには同等の權利を有つ者の制裁といふ事甚だ有力である。ある兒の勝手を他兒が通させぬといふ事に由て我儘はよほどなほるのでかような兒に

は協同遊戯を課するがよろしい。

(9) 他人を助ける精神を養ふ事。之は協同遊戯の際には自然に他を助ける場合が多い。

(10) 判斷力を養成する。判斷力の足らぬ兒には決斷の必要なる遊戯を課するとよろしい。

(11) 一方の兒の性があらかし時には割合に温順な兒を傍に置くと感化をうける。良き方を多くつけるはど効果は早し。

(12) 模範となるべき行爲をなした時には直接に其處でそれを指示してやるがよろしい。實例を歴史の上に乗せしめて之を遊戯の場合に求めることが出来る。之は最も分り易くて効が多い。

(13) 各自に對して從順なる服従を要求すべし。外國では神の命に服従する考があるが、日本には此事がない。そこで宗教上に由りて服従といふ事がま



づないとすれば教育上ぜひ之をつとめなければならぬ。遊戯の時には教師の示せる所に従ふか従はぬかよく分る故に、よく此服従といふ點に注意しなければならぬ。

遊戯は大要以上のごとく可能性、想像、感情、意志に關係するので教育的價値は非常なものである。現今ある人は遊戯と体操とを接近せしめようとして居る。之は何國でも遊戯の教育的價値を認めはじめるときによくある事なので現に獨乙でも三十年前に此事があつた。そうして之は改良すべき事なので自由な遊戯即ちあまり束縛しない遊戯の内に眞の教育をして行くべきである。

### 奇妙なる動植物(ついで)

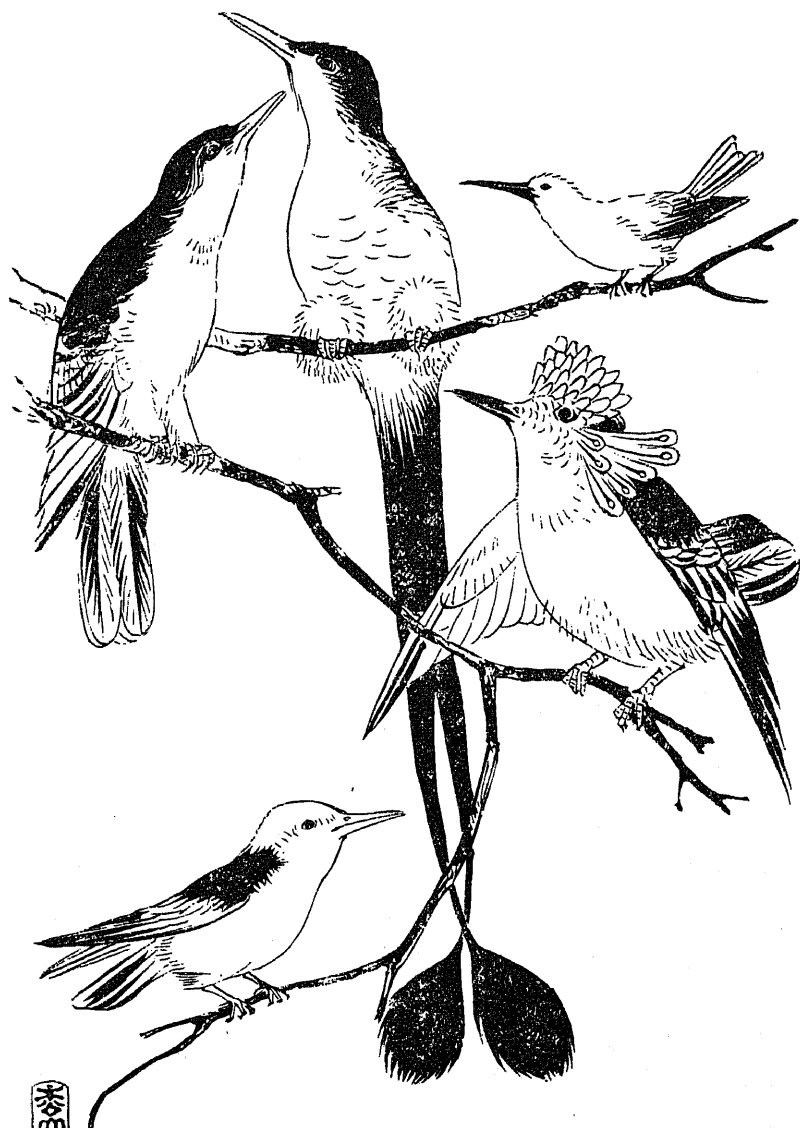
田寺寬二

#### (七) 世界第一の小さな鳥

蜂鳥といふ鳥は世界第一の小さな鳥でありましてその長さは僅かに一寸あまりしかないのがありま

す。第一圖は此蜂鳥の中の極普通なものを示したのです。凡べて此鳥の羽は皆美しい彩色をしてゐましてその嘴は身長に比しては實に長く殆んど身長はともあるものがあります皆管狀をしてゐましてランドラの様な筒狀をしてゐる長たらしい花の蜜などを吸ふには最もよく適してゐるです。

また飛翔力に至つて迅速でありまして燕なども感は一步を譲ることもあるそうです。種類はなかなか多くあります同じ種類の蜂鳥でも其羽色外形に



よつて變つたものが随分多くあるです。

雄の蜂鳥の一種は殆んど極樂鳥にもまけない程美しい鳥であります。その飾の種々あることは實に著しいものであります。その羽などはことごとく此裝飾といふ目的に適ふ様に出來てゐるのです、だから其羽の變化の著しいこと、いふものは實に驚くの外ないです。第二及第三圖は所謂雄が非常なる變化を有しその美しい奇妙な外形を持つて居るといふことの例としてあげて見たのです。斯様な美しい飾り物があるものですから人によく珍重がられて飼はれるとのことです。この類はすべて西半球の産でありまして合衆國には殊に多いそうです。(未完)



# 史傳

## 大題小題二

米 溪

サーモビレーの戰(承前)

エフアイアルツの敵將の床前に致さるゝや、大金を求めて曰く、請ふ、一の山徑を告げん。此の要區を衝けば、敵は之れ囊中の物、其の苦戦想ふべきなりと。サーキジス乃ち、其の將ヒダーチスに命じ、一隊の兵を率ひて其の通路を固めしめ、輕騎を分ち枚を銜て夕に發し、丘麓を繞り、稠林を穿て進ましむ。

鷄鳴曉を催して、晴風四境を互り、天地寂と

して、夢靜かなるに當り、山逕の守兵、忽ち、溝  
 逕の落葉、索々聲あるに驚けり、蹙音既に枕頭に  
 在り。驚愕措を失し、走て營を出づと雖とも、矢  
 石雨下、面を向くべき様もなく、潰走、皆、山頂  
 を指しぬ而して波斯の兵之を逐はず、直に進んで  
 山を下る。

天明、希臘の哨兵、森林の側を流る、河水の、  
 煌々眼を眩せしむるを見る。之れ日光の細波に浴  
 して、金漣を湧かすにあらざ。敵軍山を亘るの甲  
 冑劍戟、太陽と相映發して影水中に落つるなり。

是の時に當りてや、シムマリ人、亦ペルシャ  
 の陣營より竊かに墻壁を越て來り、山逕は遂に扼  
 せられ、敵將山を攀ちて將に東門より殺到せんと  
 するを告ぐ。時正に初卯、山路迂曲、直ちに達す  
 る能はず、其の希臘の陣後に到るは、正に下午に

在らんとす。若し夫れ敵人の圍を受くるを欲せざ  
 れば、乃ち逸出するを得べきなり。

詰朝の祀、己に終りて、希臘の營には、是に簡  
 短なる會議を開く。而して陰陽師ノジスチアス、  
 龜卜によりて、戰に利あらざる事を説く。レヲニ  
 ダス、乃ち命じて退き去らしめんとす。蓋し、到  
 底守るべからざる地域を捨るは、決して通常人の  
 耻とすべき所にあらざればなり。然りと雖とも、  
 メジスチアス固く執て動かず、獨り其の一子を遣  
 り還し、竟に自から去ることを肯せざるなり。

レヲニダスは是に於てか、其の全盟軍に令し敵の  
 歸路を絶たざるに乘じ、速に引き退かしめ、而し  
 て、己れ其の部下のスパルタ人と共に、靜に、此  
 處を墳墓と覺悟して止まれり。

謂へらく、死あるのみ。粉骨壘身の勞も、命を

惜みては寸功なけん、希臘に酬ゆるは唯此の時ありと。

△△ 全盟の諸軍總て退くに同じ、唯八十のマイセニ一人と、決してレヲニダスを見捨てずと揚言せし七百のセスピアン人と、四百のシーバンス人を殘せるのみ。(二百のスバルタ人、各自少くとも一名の奴僕を従ふるを以て、其の數甚だ精密ならざるも) 總兵大凡千四百、堂々是に二百萬の敵軍を迎へんとす。精氣天に沖りて、威風山澤を壓せずんばあらず。

スバルタの陣中、レオニダスと同じく、ハーカルスの種類なる、二人の親屬の従へるあり。レオニダス之を助けんとし、スバルタの音信を齎らし、遣り還さんと擬せしに、彼等は竟に肯んせず。一人は凜然、其の言を斥けて曰く、吾人は戦はん

が爲に來れり、敢て書信の使たらんとはあらずるなりと。他の者は曰へり、我は總てスバルタ人の知らんと欲する所のものを行はんと。

スバルタ人、ダイニセスと云へる者あり。襲來の敵兵、山に亘り、野を蔽ひ、放つ矢さへ空に滿ち充ちて、天日爲に暗からんとすと聞くや。此然大笑して曰く、好し以て、涼しき日蔭に戦ふを得んと。

スバルタの雄兵三百、其の二人は眼を患へ疼痛恐ぶべからざるものあり、遂に近村に送られて痾を養ひしが、ユーリタスと名くる一人は、蹶起して甲を鏝し、從者を促して、陣に導き、戦列に加はらしめぬ、唯他のアリストデマスなる者は、病重くして、同盟軍と共に退きたり。

全軍既に營を徹して退くべきは引き去りぬ。而

して日未だ甚だ高からざるなり、レヲニダス乃ち最後の糧を命ず、青風陣頭を渡りて、馬も聲なく朝暉鎗刀に落ちて、千軍陣を凝す。レヲニダス乃ち大聲呼で曰く、今夜、請ふ諸君、閻魔と共に夕餐の卓を共にせんと。

選兵千四百、意氣斗半を衝くも、今夕は盡く之れ無定河畔の骨。一死國に酬ふの意氣、愛すべきと共に、妻子兄妹を残して、此の陣頭に立つの胸臆を察すれば亦悲むべきものなくんばあらず、然りと雖とも、既に此に至る、今日の事唯國家あるのみレヲニダス嘆喟幾回、遂に衆を提げて胸壁を出て、堂々敵を俟たんとす。謂へらく、矢種のをらん限り、刃の續かん程は、力限り、根限り、敵を屠りて、希臘人の名を聞かして、震慄するに至らしめんと。(未完)



人の世

木かげにうたふ老し人  
芝生をはしる若き子ら

佐々木信綱

花の香、人を酔はしめつ  
鳥の音、むねををどらせつ

春の色あふれたり空に  
春の光みちたり野邊に

のどかなりや人のこの世  
たのしきかなや人のこの世

あゝ見よかしの森かげを  
罪人のせし黒き馬車  
町の方にぞいそぎ行く

## 煙

松 寺 久 雄

こゝかしこ鶏なきて  
をちこちに小鳥こゑして  
世の塵を清くはなれし  
曉の山かげの村

たちこむるもやのうちより  
ゆくらく大空たかく  
のぼりゆく朝けの煙  
見るだにもこゝろ樂しき

遠方の高嶺は暮れて  
夕鳥こゑにぎはしく  
こゝの睡かしの畔ゆ  
村人のかへりゆく方

木がくれのこゝにかしこに  
そらたかくなびきあひつゝ  
たちのぼる夕けの煙  
見るだにもこゝろ樂しき

つらき世のかぜにふかれず  
都邊の風になびかず  
朝夕たなびく煙  
見るだにもたのしきはれ其煙

## 旅の空

ふるさと忘れ今ははた  
雁が音さゝてをどり立ち  
あゝこひしなれし故郷

うきこと繁き旅の空  
ははこ草の名慕はれぬ

かすみこめたる山かげの  
花のにはひに胸をどり  
戀しき家兄いまいかに  
月のひかりに涙おつ

あゝなつかし遠<sup>とほ</sup>ちの山かけ

四とせの月日なつかしく み空の星をながめては

指をりわがせ敷ふらん 門べに我<sup>わが</sup>妹子<sup>むすめ</sup>ながむらん

いや長きこんとしつき

花のわけばの月のかげ まなびの窓<sup>まど</sup>のいそしみを

はやくも卒<sup>そと</sup>てとくとくと 飛びても行かん里の家

はや行かんかのみ空

瀧

東くめ子

ほとばしるみなわに袖はぬるゝとも

よりにながめん瀧のしら糸

天の原仰けは高し雲間より

みなぎりおつる峯の瀧津瀬

亡友をおもひて

同人

夢のうちになきし歌聲ありしごと

うつくしかりき今はなき友の

我伯母上

しのぶくさ

我母方のをば上は、母上よりは妹にたはしまして、御歳は、四十の上に二ツ三ツ出て、給ひぬれど、ほどよりはいと若やきてなん見え給へりし。そは御子もち給はぬ故にやと思はる、我ははらから多くして、幼き頃より伯母上の許にて、人となりぬるに朝夕、誠の母にもまして、まめやかに我を愛し給へり。我くに出でん時にも、返すくも諭し給ひけるやう、衣服調度は更にも云はず女のたしなみは、かくあるべきものぞ、故郷の空をのみ、徒らになつかしむなよ、一度出でたらんからには、歸着でやは立歸るべきなと、こまくとしひき、かくて年毎の休みには、うからやからの顔見るとを樂しみつゝ、歸着しぬ、そのほとは照る日かしく、夏<sup>なつ</sup>の盛も、春風の和らかなるが如き、心ちするまどぬに、長き月日の過ぎ行くをも、知らずなん、別けて去年の歸着には伯母上も健かにて、迎へ給ひ、我もうれしく、冷々しき夜のそゝるありきなどには、いつもく伴はれき。

さる程に、八月の半、姉上の御いたつき、重くおはする。し告げ來ぬ、驚きて姉上がり行きて、夜盡心を盡してみとり參らせたりその間十數日が程伯母上にめがれけるを、伯母上は姉上の御病、いかにくと打案し給ひ、飲食廢臥も安からず在しきとぞ、かくて珍らしきものなと、調しては、みどりせる我らにさへ、數里へたゝれる處より、送り給へり、さしも重かりし姉上の御心ち稍々怠り給ぬれば、また伯母上の許にかへり行きて、かたみに喜ひあ



べりしが、我は出立の用意に忙しく、それより五日ありて、東上の途に上りぬ、波止場に立ちて、涙くみ給へる、伯母上の御かほの、今も目の前にありて、いつの世に忘らるべき、かくて我は事なく東上し伯母上より、喜びの玉章なとれさせ給ひて、三つきがほどはゆめのまに過しに、十一月の半、伯母上の重くわづらひ給ふよし報せあり、驚かれてその文を、たにきれるまゝにて暫しは途方にくれてありしが、友なる人に勸まされて、逸早く案じ出たし、鄰には非らじと思ふ、くさくさの果物取そろへ、箱に入れて、小包郵便に托しぬ、やがて半時も経るに、戸口には電報の聲すなり、臆を冷して封おし開けば、兄上の許より、伯母上のなくなり給へるよし、告おこせ給へるなり。嗚呼このたより今少し聞かで、あらましものと、文明の利器も、時にとりては恨みられき、さても一度は、御命の程もいかにかと聞えし姉上は今も安らげく在して、それが爲めに、心をなやまし給ひし伯母上の、むなしくなり給ひぬるよし思へば、はかなきものは、人の世になん。目のあたり聞え上たき事の數々、あるにと打かこども幽顯界を異にして見まゐらすべき由も、なきぞかなしき。さるにても一片の紙のはしに、告げおこせし言葉の、いかで、我心に世になき人と、思はしむるを得んや、ことしの歸省にも波止場に立給て、打笑みつゝ迎へ給ふ、伯母上のおはするものと、のみ思ひて、旅立つなるべし、さは云へま、今は世にいまさぬものを、嗚呼如何にせん、今は世にいまさぬ我伯母上よ。

嗚呼如何にせん、今は世にいまさぬ我伯母上よ。



遊戯の方針 (承前)

町田則文

それならば前のやらな事實がある、然らば教育上ドウ云ふ風に考へたらば宜いか、前の事實を下ウ云ふ風に教育的に應用すれば宜いかと考へれば左の三ツに應用して考へたならば宜からうと考へる第一は男子と云ふものに就ては兎角野蠻の風を餘程帯びて居る、殊に其粗暴も十歳位か最もヒドイ、十七八歳にもなると一般の事を考へる、十歳から十一歳頃は自分勝手にやると云ふ傾きがある

故に餘程其間は吾々が相當な抑制をして制限をして行くと言ふ必要が起つて來ふと考へる、それでは若しそれを抑制せずして子供の儘に任かして置けば遂には九で一方に僻した我儘勝手の間人を作ると云ふ事になる、幼稚園は左程の事も起るまいが男子に就てはさう云ふ傾きがある、故に男子に就ては矢張其傾きを相當な間に旨く制して行くと云ふ考へを始終有つて行かねばならぬ、これは六ヶしい事で餘り制し過ぎると折角の發達を害する、それ程活動の時期であるから唯押へ付ける、大人の考へでやつて子供に對して消極的の處置をする事があつて、幼稚園の時から其考へを容れて置いて十歳位になると激しくなるから之を監督するものが抑制して行く、同じ遊戯をするにも我儘勝手にさせないで成るべく一般の人の迷惑にならぬやう

に仲間の迷惑にならぬやうに或る適度内に抑制して行く、吾々が遊戯を課するにもさう云ふやうに遊戯を仕組んで課して行くと云ふ事が必要と思ふ第二には殊に男子の爲めにはそれが社會的、他日世の中に出て仕事をすると云ふ基礎に吾々は考へる、詰り人間はそんなに身体を活動するは他日世の中に出て仕事をせず居られぬと云ふ性質を現はして居る、他日吾々が世の中に出て仕事をさせる基礎にすると云ふ事を持つが肝腎と思ふ、幼稚園なり小學校に於て種々遊戯をさせる時にそれが他日世の中に出て仕事をする本になる、唯物を知らず爲めに遊戯をさせるのでない、他日仕事をさせる世の中でする仕事の基礎にすると云ふやうな事に吾々が應用して行くと云ふ事が起つて來る、第三は男女子は別に成るべく別にするが宜ろし種

々の遊戯の事を組織するには或る程度までは一所  
 で宜いが、或る程度以上は一所にはいかぬ、と云  
 ふは自然に任かせて置けば男子のする遊戯と女子  
 のする遊戯と違ふを以て知るを得べし、それは天  
 性である、自然の傾きである、故に男女子は或る  
 程度より異なつて凡ての事を課すと云ふ考へを有  
 たねばならぬ、何でも男女は凡て同一にせねばな  
 らぬ、或る意味に於ては男女同一にも同じやうな  
 興味を感じる、大体は一方は筋力を勞するやうな  
 事、甚しきは粗暴と云ふに至るまでの事をやる、  
 一方は手の仕事とか、他人を恵むとか社交的事  
 とかに自然發達して行く、それで男子は自ら別  
 かれて居る、或る程度までは吾々が特別に考へね  
 ばならぬと云ふ事が起つて来る、従つて種々の課  
 目等に就ても男女別々に考へてすると云ふ事が起

つて来る、それから此遊びは遊戯の種々の事實の  
 統計から起つて来て此三ツが異らうと思ふ、それ  
 ですからして只今申した事實は大に参考になると  
 すれば、さう云ふ事實は幼稚園及び小學校に於て  
 遊戯の方針を極めると云ふ事は餘程大事である、  
 唯これが面白さうであると云ふ考へからはかり極  
 めると適せぬ、畢竟子供には徒らに機械的に遊戯  
 を課すれども面白からぬ、それは自然の發達の今  
 の事實から出来て居らぬと云ふ事もあるから面白  
 くないのであらうと思ふ、それで強いて面白から  
 してやるは無理な事で、ドウしても子供に適せぬ  
 事がありまますから其處等は吾々教育家は互ひに研  
 究せねばならぬと思ふ、子供が随意に遊ぶ種類を  
 集めてそれから起つた論定である、更に又大人が  
 子供の爲めに遊戯を組織してやると云ふやうな事

これは年を取つた者には大人が組織した遊びなどは随分子供が好む事も起る、只今のは小さい子供の事である、併し幼稚園などで自分の工夫した遊びばかりをすると云ふ事も出来ぬが、さう云ふやうな傾きがあるとすればさう云ふ傾きを以て方針を極めてやらねばならぬと思ふ、これは先刻申した通り他學者の集めた種々の遊戲の事でありますから今直に此論が適する適せぬと云ふ事は言はれぬ、大体平常感ずる事に思ひ當つて居りますから他國の實例ではあります但し申上げた次第であります、

凡て遊戲をさするに就ては遊戲に就て種々目的がある、例へば泥遊びをさせる、或は人形を飾つて遊ぶ事にしても之を分析すれば種々ある、譬へて見れば美麗に飾るとか、齊整に飾るとか云ふ事

も其内でさせなければならぬ、或は能く保存をして置く、一遍飾つた以上は後とはドウなつても構はぬ、それを能く保存せねばならぬ、同じ泥遊びをするに就ても能く作る事ばかりに着目するは大變間違と思ふ、能く作つて保存する、貯蓄して置く、出来さへすれば後とは毀はしても宜い、恩物を子供に與ふることにては子供が家へ持つて來れば忽ちに忘れて仕舞ふ、保存は出来ぬ、仕舞つて置き、或は他の人に見せて快樂を與へると云ふ事はドウもないやうに思はるゝ、故に作る一方ばかりを目的とする譯でもありませんまいけれども作るだけならば智力の一方に偏すると思ふ、故に仕舞つて置いて蓄へて置き、人が來たならばそれを見せる、それを蓄へる考へも起らず、人を愉快にする爲めにもせぬならば効がないと思ふ、唯智力は

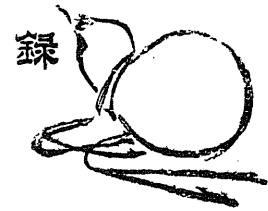
かりに片寄るならば毎日々々手数を掛ける事は効能が少なくないと思ふ、學校に於ても、時々子供に命じて前に與へたものを持つて來て見せとかそれが能く保存してあつたとか、ドウ云ふ風に人に見せて愉快にさせたとか云ふ事まで考へねば智力一片にのみ偏して恩物を與ふるの旨趣にあらざるべし今日幼稚園を智力的に傾くと云ふ評があるは蓋しさう云ふ所から來たではないかと思ふ、又小學校なぞにて作文を書かせるにしても繪を畫かせるにしても學校の教場に兒童があるときは能く考へても家に歸れば一向其事を考へず、蓄へて置きて人に見せて愉快を與へると云ふものにまでそれが及んで行くと云ふ事が深くない、それから當り前の競争ならば競争をさせること元とより宜ろし然し只自分が面白く遊べば宜いと云ふ方に傾く、唯自

分が唯遊ぶやうな事が上手になれば宜いと云ふやうになつて共同的に斯うすれば人の迷惑になる、斯うすれば人が愉快を感じると云ふ事は無頓着なると云ふ傾きがないとは言はれぬ、同じ遊戯をさせるとも其内を分析して考へて見ればドウ云ふ遊戯でも種々なる要素がある、唯智力ばかりをやつてそれで終つては効力が薄いと思ふ、遊戯にしても種々の事の要素を含んで居るからそれを皆實行するやうにして成るべく分量を少なくして其事を首尾一貫して考へるやうにして行く事が大變必要であらうと考へるのです、

それで甚だ不束でありますが遊戯の方針を定むると云ふ事に就て感じた事を申上げた次第であります(完結)



雜



録

幼稚園案内(承前)

東 基 吉

幼稚園の種類

現在日本では、幼稚園の種類と申しても、一通りのものしかないが、外国では幼稚園に類したもの、種々ある。一寸簡単に記して見よう。

假令ば、獨逸にクリッペンといふのがある、もとは佛蘭西から來たので、其創設は寧ろ幼稚園より早いといふ事だ、重に貧乏人の子弟を收容するので

大抵二歳位から入れる。次に幼稚學校とでも譯すべきものがある、これも前同様の種類である。其他に幼児預り所といふのがある。これも下等の労働者の幼児を、父母の労働時間だけ預つて置いて、父母が家庭で自分の子供等の教育を懸念しないで、其日々、のパンを得て行く様に、つまり父母に代つて教育してやる所なのである。

此三種類は、現今頗る其必要を認められる様になつて、殊に繁華な商工業地に繁昌する様になつた我國に於ても、今少し社會の事情が整頓せられる様になつて、労働者の時間等も、ハッキリ制限がつく様になると、是非、此種類のものが必要になるだらうと思ふ。

幼稚園の本旨

然し、所謂幼稚園といふものになると、同じ

く幼児の世話をする所には違ないが、以上三種のものとは、大分性質が違つて来る。右述べたものは何れも専ら貧民の爲めである。自ら家庭教育を施す事の出来ないもの、爲めに、言はゞ代つて、教育を施して行かうといふのである。然し幼稚園といふとたい貧民の爲めばかりに限つたものではない。

一言幼稚園の本旨とする所は自分の考によれば次の如く言ふ事ができる。

一體普通教育といふものは、ある専門の職業教育を受ける爲めの土臺の教育で、現今の所では小學を卒へると、夫で宜いのだが、まだ其上の普通教育を受け様とすると、中學校か高等女學校を卒へねばならぬ、所が其普通教育の最初の小學校に入る、其も一つ前の教育はといふと、言ふまでも

ない、家庭教育である。此通り教育といふものはず一つと鎖の様に繋つて居る。

だからして、其前の教育が甘く行きさへすれば其つゞきの後の教育の結果が、自ら甘く行かねばならぬ。従つて家庭教育が甘く施されると、其後々の教育が自らよくなる。家庭教育は即ち一切教育の基礎であつて、家庭教育を完全にしなければならぬといふのは、つゞまる所、一切教育の結果を完全にしようとする所が爲である。所が、だん／＼考へて見ると、家庭教育といふものは、一體が系統立つて施されるものでないから、自然其性質上缺くる所が多い。どの位教育の理法に通じた父母がやつても、性質上、缺くる所がある。既に其性質上、缺くる所があると、其影響は、どうしても、將來の教育の結果にまでも及ん

で来て完全なる基礎的教育となるには、不完全になる。すると、基礎的教育として、更に此缺陷を補ひ、以て將來の教育の結果を出来る丈け、大きくしようといふ設けが必要になつて来る、既に其性質の上に、缺くる所がある家庭教育が、若し教育の何たるかを知らぬ父母に由つて司配せられるとなると、此設けがますます必要になるといふ事も明である。其設けといふのが、即幼稚園であるからして、幼稚園は、家庭に代つて教育する所ではない。家庭殊に善良な家庭の薰陶感化といふものは、教育上極めて大切な要素で、子供から早く此感化を奪つて仕舞ふなぞいふ事は、教育上丸で不當のやり方である。

### 保育の要旨

其處で、然らば幼稚園で子供を保育して行くに

五十二  
は、どう云ふ方針でやるか、其保育の要旨は如何と云ふ問題になる。

教育の上には三つの方便がある、第一は身體を發達させる事即体育、次には道德に慣れさせること即訓練、も一つは智識を授ける所の教授、此三であつて、之等は何れも必要な方便で、どつちを重んじどつちを輕んずるといふ譯には行かない然し時の點から考へると、どうしても、最初の教育には體育が主となり、夫から訓練が之に加はり次に教授が又加はつてくるといふ風になるのは、分り易い事だ。

それで、幼稚園は前記した通り、教育の一番最初の段階にあるものだから、保育の方針としては身體の發達を主とする所の體育が眞前に来る、夫から、子供相當な訓練も之に次いで必要だ、一定



の順序形式に依る所の智識の教授といふものは、これは、寧ろ學校の任務で、幼稚園保育の本旨とする所ではない。

さて、其要旨を一つこう定めて置いて、夫から無識無鐵砲な外國婦人や、又我國でも時々感じた所の

### 保育上誤謬の見解

といふものは、つまり以上の要旨の反對に出ることだ、詳しく言ふと、何んで賢く賢くし子供を發達させて行かうといふので、第一番に智識啓發智力開誘といふことに重きを置いてかゝる。夫だから、僅か三つや四つの子供を捕へて、やれ正方形の邊だの角だの、そらこれはこう云ふ規則にどうするのと、丸で幾何學の初歩の様な事をやらせたる、同じ話をして聞かせるにしても、日常食

べる飯のことなどは、いゝが、夫から連絡をつけて、田舎の田や畑の稻だの麥だの、智識にまでも及ばさうとしたり、やれ觀察力をどうしようといつては丸で、技藝學校の生徒の成績品の様なものを作らせ様とする様な事をやりたがる、自分等は、子供を、左様々々早くから賢くしたくはないので、つまりは、最後の競走に勝利の月桂冠を得させれば夫でよいのだか、あの様な考の人は、長い〜競走場の走り出しの所を元氣よくさせ様と思つて、いざ決勝點といふ所になつて、丸でグニャ〜にして仕舞はうとするものといつてよい一體子供の時から、智識々々といふ事は、甚だ面白からぬ事で、其缺點といふのは先づこうだ、一、大きくなつたら、苦もなく分ることを、小さな時に教へようとするから、餘計に骨が折れて

おまけに無理が勝つ、

二、見た事も、聞いた事もない新らしいものを眞實理解しようといふには、豊富な想像力が要る子供には、夫がまだ發達して居ない。夫に繪や何かでやると、粗漏な、間違の多い觀念(智識)を構成させることになる。

三、小さな心力を過勞させる結果、此時期の教育に必要な身体の發達に悪影響を與へる。(未完)

鹽津みやげ(その一)

和歌子

海を前に三方山で圍まれた南海の一小村鹽津に、此夏の居を占めた私、其地のみやげと申すほどでもございませぬが、主に幼児に付ての事を少しばかり記さうと思ひます。今日の處は其地に行く迄

の道中記でございます。

●七月某の日、清子(七年九月)文字(三年二月)は、昨夜大阪の某家に入りてこのかた、同行の御祖母さんと伯母さん(私)とに幾度「ハヨ鹽津へイキマシヨ、イツイクノヨシ」とせめたか分らぬ。今朝立つといふので氣が浮き立ち、いよ／＼「ハヨ／＼」と急ぎ立て、居つたが、十時に難波ステーションを發車した時には、大好の氣車が動き出したのと伯父さんや伯母さんや従兄弟達待つて居る鹽津の方に向つたのと兩方で大喜び。午飯の時に、氣車があまりガタ／＼ゆれるので、思ふやうに箸が口に入らぬと言つて、清子は非常にをかしがり、キャラ／＼とめ度もなく笑ふ、其笑ふのがをかしいと言つて大人がまた笑ふ。一体南海鐵道の氣車は實によくゆれるので前後左右

に身体がゆられてたまらぬ位、小さい文子でさへも之には感じたと見えて、「汽車テューモノコナイナルノ」と言ひながら身体をひどく縦横に振つて見せる。此形容には二人の大人は少からぬ同感を表した。清子は尋常小學二年生といふので、平假名位は讀める處から、ステーションに着く毎に、驛名を一字一字拾ひ讀みする。文子はまだ小さく動く事ばかりが好でステーションに少時でも永く停車するとグツグツ言ひ出す。廣い大阪灣を見て「大キナ川ヤ」と言ふので其海である事を話してやる。清子はたえず「和歌山マテ何里アンノヨシ」「ステーションモイイクツ」などと問うて見たり、又瞬間毎に吾等を送迎する車窓外の山、川、海、畑、家、人を注意觀察して餘念もない。殆ど三時間、首が窓からはなれた事はな位。文子の方は

大分倦きて居つたのが、紀伊に入るトンネルの長いのでアツケにとられ、心機一轉、紀の川の鐵橋を渡る頃には水の流を見せてもらつて大恐悦。  
 ●さていよいよ和歌山市驛に着、下車、今度は人力車を走らせて市のはづれにある鹽津行の船宿に行き二時間計休息。此間に二兄は川岸に出て草を摘んだり、向岸の牛を見たり、泳いで居る子供を見たり、小石を拾ひ集めて「千代サンニオミヤゲニシマシヨ」など、かわいゝ事を言つたりして居る。やがて小さな乗合船に乗て此處を出たが、川を行く間は船頭が漕ぎ、海に出てからは小蒸汽船に洩かれる。船頭が漕ぐのをやめたのに船が動くので、清子は忽ち不審に感じた。遂に「ナゼ此船ウゴクノヨシ」と質問に及んだ。をばさんは喜んで説明したが、曳く船と曳かれる船のつながり

を見出さうといふので、清子は熱心に注意して居た。ヤットの事で二船が最も遠く距つた時に、中間の綱が水の上に乗つて見えた。但しあまり引張られて直線に見えたので、「棒ヤガナー」と反問に及んだ。をばさんは又之を説明した。文字は只もら船が動くのと左の海岸の景色がたえずスーッと變つて行くのを喜んで居る。清子突如として問うて曰く、「ヲバサン此ノ海ノ中ニ龍宮テアリマツカ」と、海に出で、浦島太郎を連想した尤もな問である。をばさんは其なまいといふ事、あれははなしであるといふ事を説いたけれども承知せぬ。「ソソナラアノオハナシハウダツカ」と反問する。うそとは違ふ、はなしでさういふのであると答辨する。之でも其疑問は満足されぬ。「ソソナラ昔ハアツタノ」と問ひ詰める。むかし〜など、面白く

話しきかされて深く興味をもつて居ればこそ深く問ふので、をばさんは遂に「エー昔々ノコトハラバサンモヨクシリマセンガミナツユーオハナシヲシテキタノデ、今ハ海ノ中ニ龍宮ト云フモノハアリマセン」と断言し、そしてそれが結論になつた。

●鹽津に着く迄には唱歌したり行李を上つたり下りたりして居つたが、夕の六時にいよいよ着いたカタンと船が止まつた時にはそれは〜二兒は踊り出しそらな喜び。

忽ち波止場に阿父さんに連れられた千代子（六年六ヶ月）と英夫（四年二ヶ月）の影が見える。英夫はクル〜とした目を一層大きくして「オパーサン」と歓迎する。千代子はまづ一同の顔を見てニコニコと笑ふや否、韋駄天と駈け出した。自家に注

進に歸つたので。

●程なくきこみ子(一年六ヶ月)を抱いたをばさんも加はり、大勢で家に入る。どの室からも海が見える家なので、京都下りの二兄は心が廣々したのと千代子、英夫は幾日も前から待つて居つた。いとこの來たうれしさと、四人が久しぶりて集まつた珍らしさが相合し相待て、其喜び騒ぐ事一通りでない。大聲を出す、駈けまはる、笑ふのさわぎガヤ／＼ガタ／＼ドン／＼と其賑かな事。



●女子高等師範學校

先月十一日本校附屬校園

とも本學期の授業開始▲附屬高等女學校に於ては同日より專攻科各學年に補缺入學試験を舉行したる由▲久しく本校歴史科を擔任せられし教授齋藤清太郎氏は今回文部省より英國に留學を命ぜられたるに付き先月十八日には地理歴史専修科生一同の送別會あり同十九日には午後六時より土曜會を兼ねて本校生徒の送別會ありたり因に同校職員一同は當日午後一時より同氏の送別會を開きしが同氏は本月三日出發洋行の途に上られしとい

ふ▲例により本學期より文理技藝科四年生は幼稚園小學校高等女學校に於て毎日二時間つゝ何れも熱心に實地授業に従事せられ居る由▲保姆大島小春氏は先月廿二日病氣の爲、職を免ぜられたり。

● 文部省檢定試驗問題

教育科

- 一、文藝復興の由來及其教育上に及ぼしたる影響を略述せよ
- 一、定義とは如何なる作用を云ふか又正しき定義には如何なる條件を要するか
- 三、觀念聯合作用を詳細に説明せよ
- 四、自覺の發達する次第を述べよ
- 五、倫理學は教育の目的を定め心理學は教育の方法を定むるとせば如何にして教育學は獨立の科學たることを得べきか
- 六、教育上男女の區別に應じて如何なる注意を要するか
- 七、學校生活をして最も長く社會的生活の準備たらしむるには如何なる注意を要するか

注意 女子師範學校師範學校女子部高等女學校のみの教員志願者は第五問に答ふることを要せず

右四時間

音樂科

設問

- 一、理論
  - 一、拍子 旋律 和聲 和絃 主調
  - 轉調なる語の意義を問ふ
  - 二、長短兩音階の構成及其比較を説明すべし
  - 三、協音程及不協音程とは如何
  - 但し例を擧げて之を説明すべし
  - 四、左の樂曲に就て先づ主調を示し次に何れの部分に於て何の調に轉ぜるかを指示すべし
  - 一中等唱歌集の内 凱旋
  - 一同 國旗
  - 五、三和音の意義及長音階中の各三和音を説明すべし
  - 六、七之和絃及屬和絃の七之和絃とは如何なるものなりや
  - 七、左の低音に和聲を附せよ(圖略)
- 二、教授法
  - 一、師範學校(女子受験者は高等女學校)第一年生に初めて唱歌を授くる場合に於ける教案例を作れ
  - 博物(植物)科
    - 一、松屬を除きて松柏類の種類十五を擧げよ
    - 二、赤松を黒松より區別する簡單なる方法は如何
    - 三、楊柳屬に於ける花の構造を圖解せよ
    - 四、薄根を説明せよ
    - 五、アマ、マチ、ウナソ、カワソ、ワタ、ミツマタ、ラミリ等有用植物の屬する科名を問ふ

六、左の實例を擧げよ

落葉木本にして再羽狀葉を有するもの三種、草本にして掌狀複葉を有するもの二種、落葉木本及び常綠藤本にして掌狀複葉を有するもの各一種

七、靱皮纖維と木質纖維とを其形態並に構造上に如何なる區別ありや

八、アラギリの葉柄並にソラマメの托葉に存在する密腺の構造を圖解せよ

九、葉青素が鹼(アルカリ)并に明礬に對する一般の變色反應を問ふ

十、硝化ハクテリアの種類并に其生理生態上の特徴を問ふ

十一、エンドウの卷鬚並にアサガホの蔓の支柱を卷く理を問ふ

十二、化學的刺撃が植物の生長上に及ぼす影響并に刺撃と感應との關係を記せ

注意 女子師範學校師範學校女子部高等女學校のみの教員志願者は第一問第五問第九問及第十二問の四問に答ふるを要せず

右三時間

### 修身科

一、直覺說の種類を擧げて之を批評せよ

二、倫理學の研究は如何なる學術的素養を要するものなりや

三、大學の三綱領を説明せよ

四、物徂徠の倫理說を批評せよ

五、左の教案を作れ

(イ) 題目 人格 (ロ) 授業時間 二時間

(ハ) 學年 隨意

注意 高等女學校、女子師範學校、師範學校女子部の受験者は第四問に答ふるを要せず

### 物理科

師範學校、中學校、高等女學校教員志願者の分

一、一剛体に働く數多の力の合成に就て論ぜよ但し是等の力は同一平面内にあるものとす

二、共鳴器を用ひて音を分解し得る理如何

三、固体物の溫度零度に於ける比重を測定するとき空氣及溫度に關し如何なる補正を要するか

四、氣體の液化に就て知るところを記せ

五、光の行差(Aberation)の現象を説明せよ

六、感應「コイル」の構造如何

女子師範學校、師範學校女子部、高等女學校のみの教員志願者の分

一、一剛体に働く數多の力の合成に就て論ぜよ但し是等の力は同一平面内にあるものとす

二、共鳴器を用ひて音を分解し得る理如何

三、彈性の極限とは何ぞや

四、氣體の液化に就て知るところを記せ

五、ニュートンの環の現象を説明せよ

六、感應「コイル」の構造如何

### 博物(續物)科

一、結晶の軸は隨意に定むべきり、天然に定まりたる者か例を擧げて之を説明せよ

二、本邦のアンモン介に就きて記せ

三、接觸變質を本邦の實例に因て説明せよ

四、本邦産の有用礦物を列記して其用途を説明せよ

五、左の標品に就きて記せ

赤谷の砒、間瀬の沸石類、三宅島の灰長石

注意 女子師範學校、師範學校女子部、高等女學校のみの教員志願者は第五問に答ふるを要せず

△圖畫(毛筆畫)

師範學校、中學校、高等女學校教員の分

臨畫別紙(甲號)但線書を爲したる後濃淡を施すべし

新案 水中の魚

女子師範學校、師範學校女子部、高等女學校のみの教員志願者の分

臨畫別紙(乙號)但線書を爲したる後濃淡を施すべし

新案 水中の魚

法制及經濟科

一、法律と道德の關係を説明し特に兩者抵觸の場合を論ずべし

二、自治制の概要を説明し特に自治制に對する國民の義務を論ずべし

へし

三、生産と消費の關係を論じ勤儉貯蓄の要に及ぶべし

四、物價高低の原因及結果を論ずべし

右三時間

▲體操科 (普通體操)

一、體操科授業上注意すべき要點を述べよ

二、體操と勞働との區別如何

三、徒手體操と棍棒體操との特長如何

四、運動器として骨と筋肉と如何の關係を有するか

五、血液の功用

六、呼吸運動の目的

右三時間

▲圖畫 (用器畫)

注意 女子師範學校、師範學校女子部、高等女學校のみの教員志願者に限り左の問題中二箇の問題を省くことを得

一、兩邊二寸五分底邊一寸五分なる二等邊三角形より成る正五角錐體の投影圖を作れ

二、定直線を一邊となし各種の正多角形を描く方法如何

三、底邊一寸八分高二寸五分なる方錐にして其底面にある對角線

の一角が各畫面に三十度及六十度の傾斜を以て接するを投影圖に

作れ

四、定點を通じ定橢圓に切線(定點曲線上ある場合及曲線外にある場合)を描く法を問ふ

五、平畫面に直立せる底邊二寸高二寸五分なる方錐と兩畫面に並

行せる直徑一寸四分長三寸なる圓柱と相貫體の圖を求む

但錐體の底邊は立畫面に各四十五度傾斜し其軸と柱體の軸は

平畫面より高九分のところに於て相交るものとす

六、第五問の相貫體に於ける立體の一を開展せよ



右三時間

## ▲英語科(英文和譯略之)

一、親戚朋友に已む事を得ずして物を貸さば初よと與ふると心得て貸すべし借れる時は悦べども書過ぎぬれば惡を忘れて返へさず其の時兼て與へたと心得ぬれば恨なし貸せる物を必ず得んと思ひて責むれども返へざれば怒りて中絶ゆるは世に多き習なり

二、昔二人同じ船に乗りて往くに一人は性急なり日和悪しく船の遲きを苦しみて晝夜心を惱まし形かじけたり一人は性穩なり船の遲きを苦しまず善く食し安く寝れて顔色麗はし其所に着きしが二人一時に陸に上る此間船遲きとて心を苦しめし者何の益あるや只自ら苦しめしめるのみ

高等女學校のみの教員志願者は英文和譯三問題中二問題を撰び和文英譯二問題中一問題を撰ぶべし姓名毎葉に記載すべし

注意 和文英譯はペンにて書し英文和譯は毛筆又はペンにて書すべし

字書を用ふることを許さず

英文和譯、和文英譯を通して四時間

## ▲博物科

動物生理

師範學校、中學校、高等女學校教員志願者の分

一 織毛蟲の大小二核は生殖上如何なる關係を有するや

二 「がみすがひ」は「いそきんちやく」に比し何故に高等なる動物

なるや

三 「うに」の移動器官を記述せよ

四 軟體動物を大別して各綱の例を擧げよ

五 「えび」と「かに」とは如何なる點に於て異なるや「ノープリウス」及び「ビメカロープ」の形態を記せ

六 魚類の心臟を記述して之を蛙及び哺乳類の心臟と比較せよ

七 腎臟の機能を記せ

八 血中に存する瓦斯の種類及び其増減の理を記せ

女子師範學校、師範學校女子部、高等女學校教員志願者の分

一 八射珊瑚と多射珊瑚との區別を記せ

二 「がみすがひ」は「いそきんちやく」に比し何故に高等なる動物なるや

三 「うに」の移動器官を記述せよ

四 軟體動物を大別して各綱の例を擧げよ

五 鳥類の前後兩肢は如何に其生活に適するやを記せ

六 魚の鰓は如何なるものにして如何なる作用を有するや

七 腎臟の機能を記せ

八 物體の大小は如何にして知ることを得るや

## ▲獨語科

獨文和譯(略之)

和文獨譯

一 一人の身に一の大寶あり、之を智と云ふ、心の光明は萬の善惡邪正を辨へ知る鏡なり、人に智なく、心暗ければ、行ふべき道を知るべからず、妾に行へば、道に合はずして、非事多し、萬

に就きて善惡を辨知せざれば、吾が一身をも修むべからず、故に智は人身の大寶なりと云へるなり

二 拜啓久々御無音に打過ぎ候處御起居如何に候哉借先頃一寸御話申上置候獨逸人某儀今般大阪博覽會見物を兼ね來遊一兩日前着京の由通知有之候に付彼地の摸様種種聞合旁々一度訪問致度候處御差支無之候は、御同行有之候てば如何に候哉御都合折返し御一報被下度候先者用事のみ餘は拜眉の節に譲り候謹言

年月日 何 誰 様 何 某

▲化學科

- 一 或正鹽は之を水と溶解するとき其溶液酸性或は「アルカリ」性の反應を呈することあらば如何に説明すべきか
- 二 酸の強弱は如何にして定め得るか
- 三 アモニアの二容積を完全に分解すれば水素三容積と窒素一容積を生ずべきものなることを示す講義實驗法の一を記せ
- 四 左記物質の水溶液に於ける硫化水素の作用を方程式にて示せ
  - ア 亞硫酸 砒酸 臭素
  - イ 銅鹽及び鐵鹽の混合溶液より銅根及び鐵根を驗出する方法を問ふ
- 五 銀鍍金の方法如何又之に關する化學上の説明如何
- 六 アルテヒドとケントとの間に於ける異同の點を列記せよ
- 七 アニリンの製法及び性質を問ふ

▲國語及漢文科

設問

一 左の文の傍線を施したる語を説明せよ

イ やかすとも草は萌えなん春日野をたゞ春の日にまかせたくなん

ロ 櫻花散らばなしけん玉はこの道行きふりになりてかさゝん

二 左の文に誤謬あらばこれを正し且その理由を説明せよ

イ 露こぼれぬ

露ぞこぼれぬ

ロ 文治二年四月二のさしを昇りしも八島の内の大匠宗盛を生捕りの黨と聞ふ

ハ 委しく調査を爲せしかども遂に何等の結果をも得ざりし

三 左の傳説に就きて知れる所を記せ

眞間手兒名、松風、村雨

阿新丸、竹取翁、

淨瑠璃姫、

西 詩の六義とは何ぞ

五 諡、諱、名、字、號の別を問ふ

六 左の文字に音と訓とを附し二音以上あるものは其音に相當せる義を記せ

イ 巳、巳、己、 戊、戌、戌、

ロ 樂、數、

▲作文 普通文

方丈記に就きて(注意その梗概を叙述して且これを評論せよ)

▲圖畫科

鉛筆畫

師範學校、中學校、高等女學校教員志願者の分

臨畫 別紙(甲號)

新案 水中の魚

女子師範學校、師範學校女子部、高等女學校のみの教員志願者の分

臨畫 別紙(乙號)

新案 水中の魚

▲國語及漢文科

解 釋

一、かゝる程に世中にいとけしからぬ事をぞいひ出でたるやそれは源氏の左のむと、が式部卿の宮の御事を思して御門を傾け奉らんと思し構ふといふ事出で来て世にいと聞きにしかしるいでや世にさるげしからの事あらじなど世の人申し思ふほどに佛神の御ゆるしにや實に御心の中にもあるまじき御心やありけん三月廿六日にこの左大臣殿を檢非違使うと圖みて宣命讀みの、しりて御門を傾け奉らんと構ふる罪に依りて太宰權帥になして流し遣すといふ事を讀みの、しる今は御位もなきちやうなればとて網代車に乗せ奉りてたつきにぬて奉れば式部卿の宮の御心ち大方ならんにてたにいみじと思さるべきにまいて我が御事に依りて出で來たるにこそ聞き思すにせん方なく思されて我れも我れもと出で立ち騒がせ給ふ榮華物語

二、(イ)果報こそめでたうて大臣の大將に至らぬ容儀帶佩人にすぐれ才智才覚さへ世に越ねたるべしやはとぞ時の人々感じあはれ

ける(平家物語 小松内府教訓の條の一節)

(ロ)由良の湊を見渡せば澳清く船のかちをたえ浦の濱ゆる幾重とも知らぬ浪路に鳴く千鳥紀路の遠山渺々と藤代の松にかゝれる磯の浪和歌吹上を外に見て月に登ける玉津島光も今はさらでたに長汀曲浦の旅の路心を碎く習なるに雨を含める孤村の樹夕を送る遠寺の鐘長を催す時しもあれ切目の王子に着き給ふ(太平記大塔宮熊野落の條の一節)

同 上

讀方及解釋

三、左の文章は本紙に句讀なり點送り假名を附し別紙に解釋を爲すべし

孟子自齊葬於魯反於齊止於贏光虞清日前自不知虞之不肯使虞敦匠事嚴虞不致清令願纜有請也木若以美然曰古者棺槨無度中古棺七寸槨稱之自天子達於庶人非直爲觀美也然後盡於人心不得不可以爲悅無財不可以爲脫得之爲有財古之人皆用之吾何爲獨不然且比犯者無使土親膚於人心獨無悅乎吾聞之也君子不以天下儉其親(孟子)

右師範學校 中學校、高等女學校教員志願者の分

讀方及解釋

四、左の文章は本紙に句讀なり點送り假名を附し別紙に解釋を爲すべし

踰程禍也程禍也程謂節限也於是衣服飲食寢處作自心莫不爲之程而其與人言莫不稱程者里人皆愛之呼之爲程婆婆亦以自號云一日忽而經而死隣里駭異爲病風者及驗屍有書一緘衆共發之其書稱程婆無子久荷鄰里之患無饑無寒年七十康強無病不負人一錢世之事定矣衣家

足裏手定而所餘可以四日棺 白樺實爲粟可以飯誦經之僧一筐綾  
苧爲酒可以謝埋藥之勞生踰程則病矢寢轉而無食糜粥粟鄰里然而死  
衣棺粟鄰里無粟可飲價無酒可謝勞我豈容入負生重累鄰重而程遂今  
死程婆之程也永訣永訣衆相祝 然爲之經營然則其言而所遺正 矣  
(中井履軒婆傳)

右女子師範學校、師範學校女子部、高等女學校のみの教員志願者  
分

▲家事科

- 一、給水法の種類得失及び使者の注意すべき要點を挙げよ
- 二、綿布絹布麻布毛布の四種を用ゐて單衣を調製せんとす右材料に就て之れに適當なる物各三種を挙げ且つ之れを採擇したる理由を述べし
- 三、月收入百圓家族七人(親一人主人主婦子供二人書生一人下婢一人)

右の假定に依りて八月中の日用帳を調製す可し  
但し收支を通じて甘事項内外とす

四、實布の里亞に隔れる小兒の看護並に發病前後の状態及び治療に關する注意を詳記すべし

▲裁縫科

- 一 左の三項を説明すべし
  - 1 上布、繭油、リンネルの各原質
  - 2 動物性纖維と植物性纖維との最簡單なる識別法二種
  - 3 木綿漂白法の六略
- 二 裁縫教授に必要なる掛圖及標本は如何なる種類なるか且其

製作法の主要を記載すべし

三 中幅紋縮緬一疋(五丈四尺)にて縮入比異無垢と三ツ身筒袖被  
布の表とを裁合さんとせば如何なる裁ち方によるべきか又各部  
の名稱及裁ち切り寸法を圖中に記入し且積り方の算法をも明記  
すべし

四 宵入大夜着の裁縫に關する一切の事項を説明せよ

●女子商業學校

兼ねて設立の噂ありしが愈

先月十二日認可を與へられたれば直に生徒の募集

に着手したり校長は法學博士和田垣謙三氏、學監

は嘉悦孝子氏、校舎は當分利田錦町二丁目私立東

京商業學校を使用し十月一日より開校する由、

尙入學程度は高等小學二學年、修業年限は二ケ年

の由。

●音樂遊戯協會講習會

同會に於ては今般唱歌

及遊戯教員養成の目的にて毎日午後三時半より同

五時半まで唱歌、樂器、樂理、和聲學、教授法遊

戲舞踏等を教授する由、會場は當分神田錦町帝國女學校内に於てし、講師は音樂學校教授山田源一郎氏全多梅稚氏その他數名なりとのことなり。

●大日本女子教育會 今回女子高等師範學校教授下田次郎氏會長となり、女子教育に關係せる知名人々會員となり、題號の如き會を起さるゝ由にて、其機關として當分隔月一回雜誌を發行し、大に我國女子教育に向つて貢獻する所あらんとすといふ。今や女子教育の前途につきては研究すべき事柄頗る多き折柄、吾人はかゝる會の成立を喜び將來大に發達せんことを祈るものなり

●錦秋女塾 今般本郷區元町二丁目四拾八番地に設立されたる錦秋女塾は、地方より出京せる女學生のため誠實と懇切とを以て保護監督の責に任じ、通學の餘暇、本人の志望によりて活花點茶其

他女子に必要な技藝をも授くといふ、塾主は秋間たけ子氏なり

●女子職業學校の出品 女子職業學校にては聖路易萬國博覽會へ製作品出品の計畫中なりしか此程文部省より特に補助費金百五十圓を支給し同校を以て全國女子職業學校の代表者として該博覽會に出品せしむることゝ爲りたれば同校造花、刺繡裁縫、編物等の各科にては目下夫々準備中なりと云ふ

聖路易博覽會

同會は教育を中心として百般藝術のこれに淵源して發達せる情を示さん組織なれば、我が邦に於ても現時の文物を一目の下に瞭然たらしむるに足る出品を爲さん方針にて教育品の出品は之を専門教

育、普通教育、美術教育、盲啞教育、商業教育、工業教育、農業教育、女子教育等の數大部門に分ち、各部門に屬する學校の法令を始め教授細目、教授法、管理法、統計表及び生徒の成績品を出陳して各部教育の組織設備より教授管理の内容、學校生徒の現状及び其成績の如何を知るに便ならしむる計畫にて上は大學、下は幼稚園に至るまで各其成績品を出品せしむる方針なれば幼稚園、尋常小學校及中學校等は生徒の成績品及手工品、高等女學校は普通成績品の外に技藝專修科の造花編物裁縫諸品、高等學校は其成績品、大學及農工商の各實業學校、美術、盲啞、醫學等の専門學校は各其製作品を出品せしむる外向各學校の外觀及び内部の寫眞數百葉をも出品する豫定にて、各出品は本年中に文部省に取纏め來年早々發送する手順

なりと云ふ。

尚同會教育館の概況を得たれば左に記載す。

セントルイ博覽會教育館建築は既に先月一日竣工せしが左右各五百廿五呎北面長さ七百五十呎南面四百五十呎にして面積は七エーカー建築費用實に三十五万弗、會場の中央最も繁華の地に位置を占む

年月。博覽會の開會は千九百四年五月一日に始り、同年十一月三十日に終るものとす。陳列場の割宛は總て千九百三年六月以降とす。

分類。教育品は出品分類上名譽の地位に置かる是れ教育は萬般に於ける進歩發達の淵源なりとの大旨に基づき分類したるが故なり。

教育部(A部)の物品を分類して八門二十六種と爲す、即ち左の如し

### 第一門、初等教育

- 第一種 幼稚園
- 第二種 初等學校
- 第三種 教員の養成及免許
- 第四種 補習學校但し夜學校、夏期又は冬期學校、特別練習學校は此内へ加ふるべし、

法制、編制、一般の統計。學校監督及び學校管理、校舍圖、模型、學校衛生。教授法、成績。

### 第二門 中等教育

- 第五種 中學校及び「アカデミー」手工學校
- 第六種 教員の養成及び免許。

法制、編制、統計、校舍、圖及び模型。

### 第三門 高等教育

- 第七種 大學。
- 第八種 理科、技術、及び工藝に關する學校并に學會。
- 第九種 高等專門學校。
- 第十種 圖書館。
- 第十一種 博物館。

- 法制、編制、統計。校舍圖、模型。課程、規則、教授法、管理、研究等。

### 第四門 美術に關する專門學校

- 繪畫、音樂を教授する學院學會等
- 第十二種 美術に關する學校。
- 第十三種 音樂に關する諸種の學校。

教授法。成績。法制、編制、統計。

### 第五門 農業に關する專門學校

- 第十四種 農業專門學校、農事實驗場、森林學教授。

課程實驗及び調査、成績。運搬法及び船種法。

法制、編制、諸統計。校舍圖及び模型。

### 第六門 商業及び工業に關する專門學校

- 第十五種 工業に關する學校、工業夜學校。
- 第十六種 〔甲〕商業學校。
- 第十七種 〔乙〕商業に關する高等教育。
- 第十八種 黑人教育。

法制、編制、統計。校舍圖接及び模型。教授法、成績。

### 第七門 廢人教育

第十九種 盲人學校、盲人に關する刊行物。

第二十種 聾啞學校。

第二十一種 痲人學校。

管理、教授法、學科課程、成績。教授に關する特種用具。  
法制、編制、統計。校舍、校舎圖、及び模型。

第八門 特殊の教育——教科書、學校用器具

器械

第廿二種 夏期學校。

第廿三種 大學通俗講演、通俗講演及び庶民館  
通信學校。

第廿四種 學校協會學術上の探險及び研究。

第廿五種 教育に關する刊行物、教科書及び其他。

第廿六種 學校用器具學校用器械。

展覧品目 以上の分類を更に分解種別するとせば

左の八項目の下に網羅するを得べし。

(一) 法制、編制、及び一般の統計

(二) 建物、其位置及び設計、暖房、採光、通風、及

び衛生に關する設備、器具及び備付品

(三) 教員の養成

(四) 學校用器械器具

(五) 教科書

(六) 規則、學科課程、教授法

(七) 生徒、製作品。——文學に關するもの、美術

に關するもの、科學に關するもの、及器械

學に關するもの

(八) 新研究の成績

●臺灣の女子留學生 臺南縣吳笑(十六)黃鶯(十七)

兩女は六年前より巖本善治氏の明治女學校に入學

し來年四月を以て高等女學校の課程を終るべき筈

なるが、今度總督府の選定を受け官費留學生とし

て更に數年間同校高等科に留學し、他日歸臺の上

は該島の女子教育に任ずる由。



●香港動物虐待防止會の活動 先々月二十八日

同會は公會堂に於て知事議長席に着き左の決議案を議定せり

(一) 本會々員は各自動物虐待を禁遏するたため、銳意之に盡力す可き事

(二) 會員は凡ゆる人々に動物に對する親切心の何たるを教へ此目的を以て兒童を教育す可く、尙此目的の爲に殖民地學校の教科書に右の趣きを記載する事

(三) 清國人一般に此趣旨を擴布する爲翻譯物其他の書類を布及せしむる事

●天氣保險業 近來英國にては天氣を保險する

と盛に行はれロイド保險會社の如きは園遊會は勿論クリツケツト、ベースボール、見世物等天候の如何によりて收益に大關係する興行物を保險する由にて其損害要償の方法は被保險物が天候の不良によりて損害を被るときは出費額より收入金を引去り其差額即ち損失高を支拂ふべき約束なり而し

て保險料の割合は天候の模様によるものなるが本年は天候の不定なりし爲め申込多く去六月に於ける暴風雨の後は其割合大に騰貴し百磅の保險を附するには十五磅乃至二十五磅の高率なる保險料を拂はざるべからざることゝなれりといふ。

### 新刊の讀み物

#### ●新伏姫

少年世界文學の第十四編、八犬傳の伏姫は八房といふ犬に誘はれて、山奥で痛ましい最後を遂げるのだが、これは同じく獸の人身御供に上つて、然も、其獸は實に、立派な皇子であつたので、遂には其皇子のか妃となつて出世をした所の、「小さな美人さん」のお話し、姉妹三人の一番年下の娘で、姉の氣儘者なのに引き代へて、容貌も心も優しく

父の身代りとはなつて、獸の棲家へ行って、とう／＼此仕合はせを得る、姉二人は意地が悪いので、神様の罰で石像になつて仕舞ふ讀んで面白いことは今迄のでよく分る。(定價十二錢、神田區裏神保町九、富山房)

●犬の世界

これは、動物虐待防止會に骨を折られる、例の本田先生のおかきになつた小冊子で、先づ始の可愛い口繪の「舞踏のお相手」のよく出来てること！夫から、いろ／＼犬の種類、繪も見事に出来て、本文には犬と文明、犬の種類、犬の性質、犬の逸話と分けて書かれて居る。幼稚園の小供に讀んで聞かせた所が、その喜んだ事。(定價十錢、神田區南甲賀町八、動物虐待防止會發行)

兵庫縣通信

在武庫郡魚崎通信員 平 岩 學 洋

●神戸孤兒院の現状 同院に於ける現時收容の孤兒は男三十四名女四十四名にして、學事は高等八名、尋常科二十七名、實業補習科二名、夫れ

各學校に通學し、其の他の者は院内に於て教授せりと云ふ。

●肖像除幕式 兵庫幼稚園にては七月二十日同園設立に關し功勞ありし佐藤傳太郎氏外八名の肖像除幕式を行ひたり。

●感ずべき少女 赤穂郡鹽屋村川口そよ(十歲)といふは目下鹽屋尋常小學校二年生にして父石松母ちか妹みか(五歲)の四人暮なるが父は若き時眼病のために一眼を失ひ他の一眼も殆ど失明せんとす、實に其の日暮しも困難の有様なるが、其の上

母も幼年のときより兩眼を失ひ、只今按摩を業とせり、よそは兩親の不自由を察し、父を勵り惰ひ、朝は早く食事の拵らへなし、父母妹の食事のすみし後に非らざれば己れは食せず、食事終れば自ら髪を櫛りて學校に行き課業を終へて家に歸れば妹の守、又は山に薪落葉等拾ひに行て家計の助をなし又感すべきは父母妹の髪は自ら剃り居るといふ、斯る娘なれば學校にても品行成績とも優等にて、又缺席する等の事なく、昨年末には精勤賞等得たる由。

●夏期休業中の子供 余は休業中の前半は淡路地方及び紀和河泉地方名所舊跡漫遊のために費したり、歸宅後縁陰に書をひもとく暇、子供(生徒)の生活を調べん事を志し、自ら散歩がてら實見したり、我が地方下等社會は多く車力日雇等を業と

する者多く、其等の子弟は多く母の午睡の時隨意遊びを許されて海水浴に飛んで行く位にて、朝から晩まで弟妹のある家にては子守をなし、又子供のみなき家にては母等と共に隣寸の箱を造りて家計を助けをる者多かりき、中等以上の社會は先づ農業や商業を營む家庭なり、此等の家庭にては下級の子供は海水浴か、又は溜池の中にて日を送るか、又は蜻蛉釣り、或は縁陰を徘徊して蟬をなぶるか、其の他の昆虫を捕へて尾頭足等切りて飛ばし、或は草木等の枝芽等を切り荒しまわるのみにて何時か日は暮るなり、彼等は實に此等のために食欲を忘れて遊び居るなり、較年を経た子供は一概に云ふと怠惰で日を暮す方にて、日中に海水浴に行く位にて、其の他は父母の手傳といふてもわづかに、多くは氣儘勝手に室内旅行を試み、偶には新

聞雜誌を見る位にて、いはゞ牛か豚の様に彼方の偶に行きてゐる、此方の偶に行きてゐる、午睡を貪り爲めに自然手足がひま、働くはたい食欲を貪るのみ、少數の子供は父母に連れられて大阪とか須磨舞子とかへ行つた者もあるが、此等として少しも價値なくして只贅澤風を子供に吹かしたのみなり、以上調た大体にて暑中休暇が子供に害毒を流す事の如何に大なるか、炎威を冒して授業すると幾何の差あるか、斯る土地柄の所にては一つの疑問であると思ふ、今日家庭教育の熱を高め其の必要を解く者あれども、實行するもの少きは實に概歎に堪へざる次第なり、斯る所に於ては學校と家庭の連絡も何も皆無の有様にて、學校は學校社會は社會、家庭は家庭にて三個獨立の競争といふてもよい、此れを以て教育の如何かは諒察する

事を得るなり。

### 交詢欄

夏の休中、大分讀者諸氏よりの御音信がありましたから、臨時に此欄を設けました。

醬油の微を防ぐ法は簡單でまことに結構と存しますが、別に味に變りを來たすことはありませんか  
 (土佐愛讀者の一人) ▲幼稚園案内は何日かより待ち掛け居り候何卒精細に御記述の上中絶なき様願  
 上候(九州より) ▲先日私の家にて購讀の雜誌を皆  
 已めて仕舞はると父が申した所が、五つになる清  
 ちゃんが婦人と子ども丈けは已めてはいけないと  
 言て怒りました(千葉ふみ子) ▲始めなされ候様に  
 地方の兒守歌手毬歌等御載せ相成りては如何に候

以下に家庭欄石井先生の料理法は毎月待ち兼ねて  
 試み居り候まことに結構に存じ候尙全欄に少し衛  
 生上の話御入れ下されては如何に候ひ子ども欄  
 は毎夜子供らを眠に就せる唯一の方便に致し居り  
 候(仙臺にて)

會報

幹事會

九月十八日女子高等師範學校附屬幼稚園内に於て  
 幹事會を開き次回の常會につき協議したり出席者  
 は中村主幹雨森、林、大橋、松村、和田、關、武井、下  
 田幹事及東基吉氏なりき

入會

福岡縣鞍手郡勝野尋常、高等小學校

宗 秀 馬  
右東基吉紹介

香川縣大川郡白馬村讀

鎌田 なか  
右寺島とみ紹介

神田區駿河臺袋町一九

安井 こう  
右矢野ふさ紹介

麴町區雷町小學校

山岸 たよ  
右大橋いの紹介

沖繩縣首里女子尋常、高等小學校

久瀧 つる  
右武井綱枝紹介

麻布區狸穴町

川村 鐵太郎  
右東基吉紹介

本所區中ノ郷五町一 東橋小學校

濱家 寛二郎  
右和田藏紹介

長野縣下伊那郡山吹尋常、高等小學校

熊谷 綱二郎  
櫻山 楠子

名古屋市南大津町五一

右林富美紹介  
島雄 益造

鳥取縣高等女學校

玉井 房之助  
右松村久紹介

四谷區北伊賀町二六

林 ちよ  
奥井 しげ

相州三浦郡鄉村船越小學校

武井 とめ  
秋山 恒子

全 豊島村深田四二 森永方

右松岡幸紹介  
右八田寧紹介

大崎市東區北濱五ノ四三

牛込區白銀町三五

本郷區東竹町一一

麴町區富士見町五ノ二四

豊多摩郡千駄木村

本所區綠町二ノ一六

香川縣綾歌郡坂出町幼稚園

和歌山市本町二丁目坂田方

和歌山縣海草郡野崎村狐島

神田區東松下町二一

福島縣福島丹場町一三

鳥取縣米子堀端町

山形縣女子師範學校

麴町區番町小學校

豊前國小倉中島

房州北條

田村 和子

小 林 儀

喜多村 歌子

小 林 美 知

右田中文紹介

滿 岡 さ ェ

野 口 さ だ

右大島小春紹介

栗 山 と く

右松村久紹介

島 園 つ ね

平 山 よ ね

右松村久紹介

島 つ ね 子

右下條ますみ紹介

大阪市南區金藏幼稚園

全

長門國美禰郡岩永村

牛込區市ヶ谷本村町一五

南千住瑞光小學校内

下谷區竹町一へ

四谷區左門町一七へ

赤坂區青山高木町八五へ

麴町區四番町六へ

本所區綠町五ノ二三へ

麴町區平河町四ノ一一へ

四谷區麴町一二ノ三六へ

麴町區永田町一ノ一八へ

麴町區下二番町へ

北豊島郡日暮里村元金杉一四五へ  
本所區龜井戸有馬邸内

七十四

右東基吉紹介

山 本 文

大田ゆき子

右松村久紹介

檜 崎 景 一

溝 口 慶 子

右田村和子紹介

忍 田 千 代

改志賀

田 中 か ま

佐 藤 せ ん

改山田

東 基 吉

三 須 と し

櫻 井 光 華

津 原 ち か

池 邊 千 東

迎 っ て る

石 井 國 次

樺 山 常 子

秋 本 千 代

大 友 の ぶ

加 納 て る







# ●第一卷第五號發行●會員に特待法あり

(三ヶ月以上前金申込者を以て研成會々員とす)

## 月刊 教授界

- 定價 一冊金拾參錢
- 郵税 金壹錢五厘
- 三ヶ月分金四拾貳錢
- 六ヶ月分金八拾錢
- 一ヶ年分金壹圓五拾錢

(郵税共)

● 申込は前金に限る ● 郵券代用一割増の事 ● 見本は一錢切手拾三枚にて送本す ● 第壹號より希望せらるゝ方多きに依り凡て取揃へあり何時にても御注文に應ず

本誌には兵庫縣物産精岡と、其正確なる起源、統計、販路等に關する解説とを其卷首に挿入し、● 論說 ● 教授及訓練 ● 教案 ● 体育及音樂 ● 實科教授 ● 實業科 ● 學校及家庭 ● 實驗研究 ● 學術 ● 讀者之文苑 ● 雜錄 ● 彙報等の諸欄は悉く本會の主義に悖ることなく、一として實際的ならざるはなく、如何に其應用的なるか、如何に奏効的なるか、小學教育者并に其父兄諸君の實際に徴せられんことを望む

本誌には又豫て懸賞を以て募集したる講堂唱歌の(師を迎ふる歌) (師を送る歌)の當選せられたる者に高等師範學校訓導田村虎藏君の曲譜を併せ披露せり

### 發行所

東京市神田區西小川町  
壹丁目壹番地  
東京市神田區西小川町貳丁目  
壹番地 (電話本局三〇五〇番)

### 研成會 育舍

芳賀金登編

# 最新 調查 日露清韓交通地圖

全一帙

縱二尺一寸 横三尺一寸 ● 總ク  
ロース帙入 携帶用 ● 五度摺  
定價金八拾錢 ● 郵税不要

東洋多事の今日、露清、韓三國の精細なる地圖は世の舉つて切望せらるる所、本圖は芳賀氏長日月の苦心心計營或は當局者或は地理學者或は永く三國に留り又は巡視したる人々に諮り漸く緻密正確なるものを製するを得られたるものなり、故に一般地圖に於ける記入は勿論交通上道路の精密な鐵道電信郵便等は其停車場所在局等詳記して漏すことなし、是れ軍人、有志家、實業家、遊藝家は勿論學生諸君に至る迄苟も東亞の大局に意を注がる、人士の一日も左右を離るべからざるものとす。

東京府第二中學校教諭荒井常一先生著

# 新式 初等分數教授案

全一冊

定價金四拾錢  
郵税金六錢

初等教育に於ける教材中秩序最も正しくして而も結果最も惡しきものは蓋し算術科にして算術家中又最も生徒を苦ましめ教師を悩ましむるものは思ふに分數教授たるべし、本書は先生が高等師範學校に在りて數學科を專攻せられたる經歷と實際小學に施したる實驗とに依り此教案を公にせられたる者なれば教授者は之に依りて初めより順次に分數を授けられれば別に教案を要せずして分數教授の困難を排除し一新面目を開くに至らん

東京遊戯研究會講師中川濟君著

# 兒童表 情遊 戲

全一冊

定價金參拾錢  
郵税金六錢

本書は特に幼兒教育に熱中し親身的に其天職に安んじ、孜孜として實驗研究せられつゝある中川濟氏が、其の考按になれる遊戯法二十餘種を學峰親切に説明し且つ各方法の終りに教授の要件として、教授上の注意、實驗談等を附記せられたるものなり、殊に本書の特色とすべき點は學校と家庭との連絡を保たんとする主義を鼓吹せるを以て、教職に在る諸氏は勿論世の愛兒を養育せらるゝ父母兄弟姉の諸氏は是非一本を座右に供せられんことを望む。

# 發行所

東京神田西小川町二丁目一番地

〔電話三〇五〇番〕

# 三育舍

# 大賣捌所

(東京)林平次郎 ● 東京堂 ● 水野 ● 青野 ● 東海堂 ● 北隆館 ● 開發社 ● (大坂)前川善兵衛 ● (京都)東枝律書房 ● (熊本)長崎次郎 ● (鹿児島)吉田幸兵衛 ● (名古屋)川瀬代助 ● (新潟)目黒十郎 ● (青森)今泉道二郎 ● (栃木)内山謹三郎



明治三十四年二月廿八日第三種郵便物認可



文部省 檢定 告廣

發行以來唯一の完全なる唱歌教科用書として非常なる大喝采を博し僅々數月間に三版發行の盛運に會したる用書は今回其生徒用教師用共文部省の檢定を経て更らに其眞價を發揮するの榮を得たり從來の文部省檢定唱歌集世に刊行せし即ち教師の參考書として許可せられたるのみにして生徒用とし眞の教科用書と爲すに本書其如くは實に本書か如何なるに足るべしを完全なる良書たるかを知らるに足るべし

空前の唱歌良教科書！  
 檢定済生徒用唱歌教科書の嚆矢  
 文部省檢定済  
**唱歌教科書**

郵税一冊に就き金四錢

全四冊	生徒用	教師用
第一卷定價金三十錢	第一卷定價金三十錢	第一卷定價金三十錢
第二卷定價金三十錢	第二卷定價金三十錢	第二卷定價金三十錢
第三卷定價金三十錢	第三卷定價金三十錢	第三卷定價金三十錢
第四卷定價金三十錢	第四卷定價金三十錢	第四卷定價金三十錢

- 洋琴 金參百圓以上 各種
- ヴァイオリン 金五圓以上五拾圓迄 各種
- 樂隊用樂器 各種
- 鼓隊用樂器 太鼓金貳拾圓以上 橫笛金壹圓以上
- 手風琴 金貳圓五拾錢以上 各種
- 附保險山葉風琴 定價金拾六圓五拾錢 以上金貳百圓迄
- 右の外兩用風琴、吹奏琴、ハーモニカ、フラジオレット其他各樂器並に和洋音樂附屬品各種
- ビアノ、調律修繕
- オルガン
- 郵券貳錢 附目錄進呈